

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究
実施方法等

【類型Ⅱ】

1. 実践校について

実践校名	(しずおかけんりつかわねこうとうがっこう) 静岡県立川根高等学校		
学科名	児童・生徒数	学級数	
普通科	106 名	9 学級	

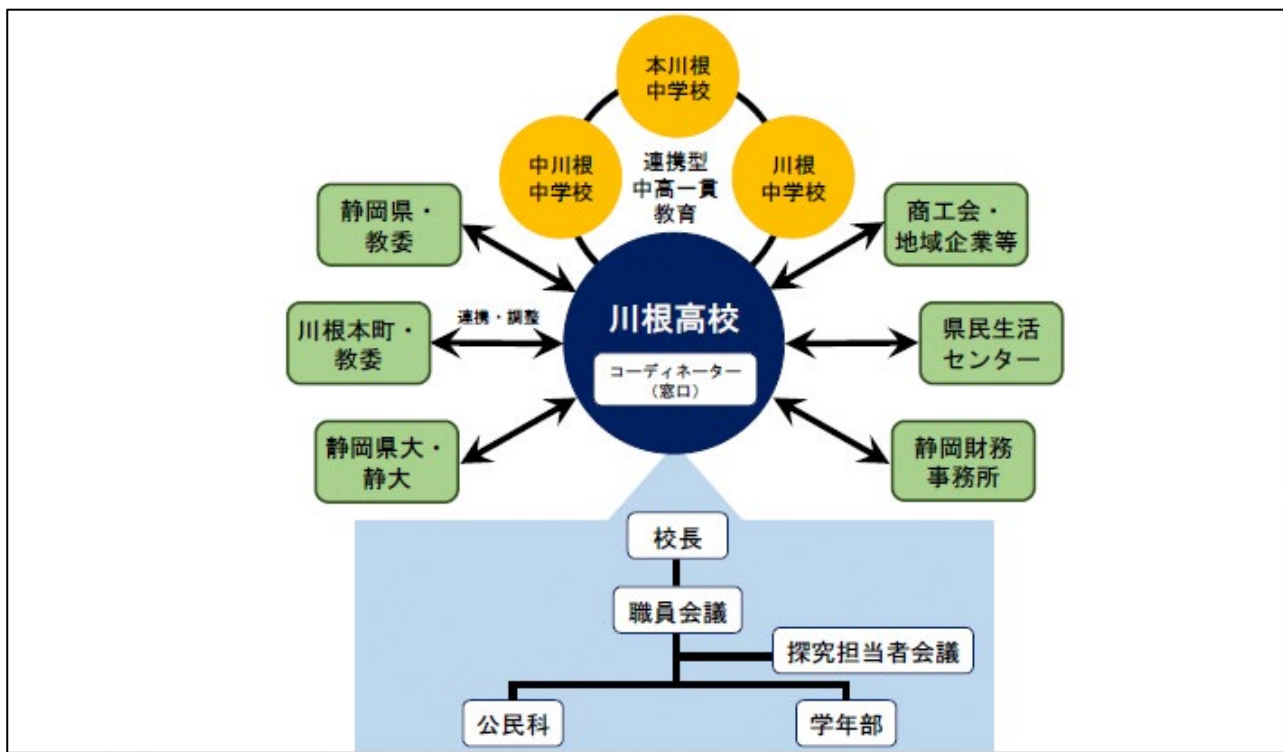
2. 実践研究の対象

3 年生「政治・経済」選択者 10 人、「現代社会演習」選択者 5 人

3. 実践研究の実施経過

	公民科	関連する教科等 (「 」は単元又は講座名)	連携機関
4 月	学習プログラム① 社会の法的主体としての自覚	家庭「ともに生きる」 特活「司法セミナー」	弁護士
5 月		情報「著作権、個人情報」	
6 月	学習プログラム② 社会の政治的主体としての自覚	総探「しごとーク」	地元企業 20 社
7 月		家庭「消費者の権利と責任」 特活「薬学講座」	Safety First 静岡
9 月	学習プログラム③ 社会の経済的主体としての自覚	特活「生徒会長選挙」	町選挙管理委員会
10 月		商業「マーケティング」	静岡県立大学
11 月		情報「データ分析」	静岡大学
12 月	学習プログラム④ 地域の「ありたい未来」の 形成者としての自覚	家庭「社会保障の考え方」	
1 月		総探「川根地域交流会」	町役場、地元中学校
2 月		特活「年金セミナー」 特活「生徒会長選挙」	日本年金機構 町選挙管理委員会

4. 実践研究の実施体制



5. 教育委員会等として取り組んだ内容

静岡県教育委員会としては、事業推進にあたって、コミュニティ・スクール事業など地域との連携を強化して地域に開かれた教育課程を推進する取組や、オンリーワン・ハイスクール事業などで推進している課題解決型学習の取組などを参考にして指導助言を行うとともに、予算の適正な執行等について指導助言を行った。

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

【類型Ⅱ】

実践校名：静岡県立川根高等学校（普通科）**研究主題**

人口減少先進地域の課題解決を素材とした主権者として必要な資質・能力を育む教育の実現方法

主題設定の理由

本校の課題は2つある。1つ目は、「川根留学生（地元中学校出身者以外の県内生徒を受け入れる）」の増加に伴う地元意識の低下である。本校は中山間地域に位置する高校であり、人口流出・少子高齢化に伴う地元中学校の生徒数減少への危機感から、平成26年度より地域と連携して「川根留学生」制度を導入し、平成30年度からは全国公募も開始した。一方で、地域と連携した探究学習を進めてきたことにより、生徒は社会的な見方・考え方を働かせて社会的事象や地域課題を把握し、合意形成を図りながら納得解を見出そうとする意欲や意識を高めている。しかし、今や本校に在籍する半数以上の生徒は川根本町が地元ではないため、どんなに探究が進んでも地域課題を自分事化しているとは言い切れない。

2つ目は、探究が進む反面、生徒の社会参画意識は年度による変動幅が大きい点である。生徒は授業での学習成果を日常生活へ十分には転移させておらず、地域を形成する主体としての意識も十分に高めているとは言えない状況にある。高校において主権者として必要な資質・能力を全ての生徒に育み社会へ送り出すことがこれまで以上に求められることや、選挙権年齢及び成年年齢が18歳以上に引き下げられ、生徒にとって政治や社会が一層身近になることを踏まえると、この現状は看過できない。

そこで本研究は、人口減少先進地域である川根本町の現実的課題を素材に、その解決に向けた探究学習と主権者として必要な資質・能力を育成する学習を「入れ子構造：時期を置いて連鎖する仕掛け」に設計する。研究をとおして実現を目指すのは、課題を自分事化しながら社会的な見方・考え方を働かせ「主権者として必要な資質・能力」を高める生徒、である。

国立社会保障・人口問題研究所の試算（平成30年）によれば、令和12年以降は全都道府県で総人口が減少する。とするならば、地域との連携により人口減少社会に立ち向かい「主権者として必要な資質・能力」の育成を目指す本研究は、本校だけに限定される特殊な事例に留まらず、全国の高校に示唆を与えるものになると考える。

概要

人口減少先進地域が直面する現実的課題の解決に向けた探究学習を構想するとともに、主権者として必要な資質・能力の育成を目指す学習を「入れ子構造」で設計した学習プログラムを開発する。

学習プログラムの主な内容

- ① 社会の法的主体としての自覚【公民科・家庭科・情報科・特別活動、5時間】
18歳成人の法的理解を深め、法と道德の違いや法的拘束力の重みについて考察する。
- ② 社会の政治的主体としての自覚【公民科・家庭科・特別活動、9時間】
実際の選挙を素材に、政治参加の意義と政治的無関心の増大がもつ危険性を考察する。
- ③ 社会の経済的主体としての自覚【家庭科・商業科・特別活動・総合的な探究の時間、10時間】
バーチャル株式投資を体験し、株式投資をととして社会参加する意味を考察する。
- ④ 地域の「ありたい未来」の形成者としての自覚【公民科・情報科・総合的な探究の時間、10時間】
地域が直面する現実的課題の解決に向けて探究し、その成果を発表する。

学習プログラムの成果の概要

(1) 生徒の変容

- ① 「社会の基本原理についての理解や、政治・経済に関する知識」の活用
学習プログラム①の後、すでに持っている知識や経験と授業で習得した知識及び技能を用いて職業人インタビューを行う姿が確認された。
- ② 「事実を基に多面的・多角的に考察し、判断する力」の強まり
学習プログラム②の模擬投票において、他者との対話を土壌として、候補者の掲げる公約を比較検討し、周囲と意見交換する中で自身の価値判断基準を形成していく生徒が見られた。
- ③ 「課題を発見しその解決に向けて協働的に追究し、納得解を見出そうとする力」の深まり
学習プログラム③のバーチャル株式投資をととして、投資は社会参加につながるものであり、多くの人々が納得できる未来像を描く大切さに気づく生徒がいた。
- ④ 「社会的事象や地域課題を自分事として捉えようとする態度」の高まり
学習プログラム④において、地域課題の解決と自らの進路を結びつけて考え、内外へ発信する生徒が見られた。
- ⑤ 「よりよい社会の実現を視野に、社会形成に参画しようとする力」の広まり
よりよい社会は自分と無関係な誰かの手で形成されと考えていた生徒が、1年間の学習をととして社会に参画する自立した主体とは何かを問い直し、自分も社会を担う一員であると気づいた。

(2) 学校組織としての変容

本研究を機に「探究」をキーワードにした教科間連携が日常化し、探究学習成果報告会が学校行事化するなど、全校をあげて探究を推進する体制が整った。

(3) 学校と関係機関との関わり方の変容

かつてはイベントのゲストティーチャーとして単発的に招くことがほとんどだったが、教育活動の伴走者としてある程度の期間をかけて継続的な関わりを持つケースが増えた。

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（詳細）

【類型Ⅱ】

実践校名：静岡県立川根高等学校（普通科）

（【 】内は「公共」学習指導要領との関連）

学習プログラム① 社会の法的主体としての自覚

【法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義、職業選択、雇用と労働問題】

公民科 (5 時間)	家庭科 (2 時間)	情報科 (2 時間)	特別活動 総合的な探究の時間 (4 時間)	連携先
・主権者とは何か ・平等／公平／公正の違い	・購入、支払のルールと方法 ・消費者の権利と責任	・著作権 ・個人情報の扱い方	・教室座席配置を考える：ドラえものの登場人物＋自分 ・司法セミナー	弁護士
・司法参加				
・労働三法の内容と意義 ・社会保障の制度と課題			・しごとーク	地元企業 20 社 商工会議所 青年会議所 町役場
			・薬学講座	Safety First 静岡 静岡県警

2022 年 4 月からの成年年齢引き下げに鑑み、18 歳の誕生日前後で何が変わるか、どんな点に気をつける必要があるかという観点で、法と道德の違いや法的拘束力の重みを当事者として体感するワークを実施した。これらで得た学びが「入れ子構造」で接続されるよう、特別活動での弁護士による司法セミナー、特定非営利活動法人 Safety First 静岡と静岡県警察本部による薬物講座と連動させて法的理解を深めた。また、家庭科で消費者の権利と責任を扱う単元とも関連性を持たせた。

高校卒業後に就職を希望する生徒にとって、雇用・労働契約等に関する法令理解や働く意義の考察は最重要事案である。労働現場のリアルを学び取るため、総合的な探究の時間で職業人インタビューを行い、対話しながらレポートにまとめた。生徒が探究サイクルを回しながら執筆したレポートは、地域へ広く還元する目的で、町広報誌に 1 年間連載していただいた。

学習プログラム② 社会の政治的主体としての自覚

【政治参加と公正な世論の形成・地方自治】

公民科 (9 時間)	家庭科 (2 時間)	特別活動 (1 時間)	連携先
・ 基本的人権と公共の福祉 ・ 地方自治と住民の福祉 ・ リニア中央新幹線の静岡工区建設をめぐる、大井川水量に関する静岡県と JR 東海の対立	・ 社会保障の考え方 ・ とともに生きる		ディレクトフォース
・ 主権者と有権者の違い ・ 選挙制度の現状と課題 ・ 参議院選挙 2022		・ 生徒会長選挙	町選挙管理委員会

家庭科で社会保障の在り方を扱う単元と連動させて、公民科で人権と福祉に関する単元を扱った。また、リニア中央新幹線の静岡工区建設をめぐる静岡県と JR 東海の対立を素材にして、個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正の義務を重視する考え方の理解を深めた。

こういった道徳的価値の揺さぶりを基にして、公民科で実際の選挙（参議院選挙 2022）を取り上げた。『私たちが拓く日本の未来』（総務省・文部科学省 2021 改訂版）を副教材にして選挙制度を学び、違法な選挙運動等をしないよう理解を深めた。その際、選挙公報・新聞・端末から判断に活用できる情報を集め、生徒自身が争点を整理し候補者の掲げる公約を比較した。Google Drive を用いてリアルタイムで全体共有し、他者と対話しながら探究を進めた。生徒は生活者目線からメリットとデメリットを考察し、模擬投票を行った。投票所を教室に再現して、実際の選挙と同じ方法で投票した。

模擬投票の結果は実際の選挙後に確認し、自分たちの結果と地域別、年代別、政策別の観点で比較・分析した。地方自治の在り方と政治的無関心の増大がもつ危険性を考察してまとめ、感想を地元新聞の読者投書欄へ投稿した。SNS で呟くのではなく新聞に出すことで自分の意見等に対する責任感をより一層強く持ち、メディアリテラシーを高めることがねらいである。さらに、これらで得た学びが「入れ子構造」で接続されるよう、特別活動における生徒会長選挙と結びつけた。町選挙管理委員会と連携して立会演説会を行って、本物の投票用紙と記載台を借用し、選挙立会人のもと生徒会長選挙を実施した。得票数の計測も本物の計測器を借用して実施し、即日開票した。



新聞で情報収集し、端末に打ち込む



町選挙管理委員会と連携した生徒会長選挙

学習プログラム③ 社会の経済的主体としての自覚

【市場経済の機能と限界、金融の働き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり】

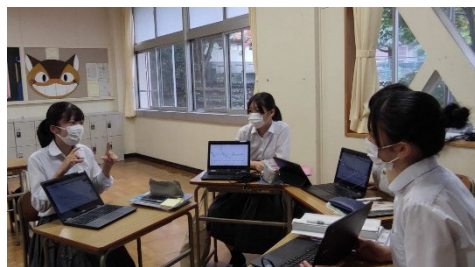
公民科 (10 時間)	商業科 (5 時間)	特別活動 (1 時間)	連携先
・成年年齢の18歳引き下げ ・消費者問題 ・働くことの意義		・消費者教育セミナー	中部県民生活センター ディレクトフォース
・生きづらさをのりこえる社会づくり			静岡県立大学 愛媛県摂食障害支援機構
・経済と私たちの生活 ・囚人のジレンマ ・国民所得と景気循環	・消費者行動とマーケティング ・販売戦略		ディレクトフォース
・企業の社会的責任 ・株式投資の意義 ・金融の働き	・販売促進		増商

2022 年 4 月の成年年齢引き下げに伴い 18 歳でクレジットカードをつくることも可能になり、金融・経済教育の重要性はますます高まっている。本校生徒の約 30%は高校卒業後の進路として就職を選ぶことから、社会に出て働くことは生徒にとって身近にあり、働くことは経済的自立とほぼ同義である。そこで、静岡県中部県民生活センターを講師に招き消費者教育セミナーを特別活動で実施した。また、静岡県立大学と連携し、大学生 4 名とともに「生きづらさをのりこえる社会づくり」というテーマでワークショップを実施し、価値観の葛藤に着目して道徳的価値を揺さぶった。

その上で、投資学習プログラムの一つ「日経 STOCK リーグ」に参加してバーチャル資金 500 万円を元手に株式投資を行った。バーチャルでの株式投資といっても、扱うのは実際の上場企業であり、実社会のとおり株価はダイナミックに変動する。株価チャートの変動に生徒は右往左往しながら探究サイクルを回し、川根本町が直面する現実的課題や自分の興味・関心と関連性のある投資先を約 3,600 社の中からスクリーニングして、10～20 銘柄を購入した。最後に、株式投資をとおして社会参加するとはどういうことか考察した。これらで得た学びが「入れ子構造」で接続されるよう、商業科で消費者行動とマーケティングを扱う単元と連動させた。



県立大学生とのワークショップ



株価チャートを比較して購入銘柄を検討する

学習プログラム④ 地域の「ありたい未来」の形成者としての自覚

【財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、持続可能な社会づくりの主体となる私たち】

公民科 (10 時間)	家庭科 (2 時間)	情報科 (3 時間)	特別活動 総合的な探究の時間 (3 時間)	連携先
・地域経済分析システム (RESAS) で基礎情報分析		・データの収集 ・データの活用 ・データの分析		静岡大学 立命館大学
・財政と税金 ・赤字バス路線の新廃	・超高齢、大衆長寿社会の到来 ・高齢者の心身の特徴		・年金セミナー	日本年金機構
・第2次川根本町総合計画の分析と政策評価 ・問いづくり ・問いの検証			・プレゼンの手法 ・プレゼンづくり ・川根地域交流会	県教育委員会 町役場 町教育委員会 地元中学校

「町が直面する現実的課題にどう対処するか」を共通言語に公民科と情報科、家庭科で学習を進め、それらで得た学びが「入れ子構造」で接続されるよう総合的な探究の時間へ連動させた。各種データの分析を土台として、そこから各自が問いを立てて調査等を進め、生徒は地域の「ありたい未来」を実現する方法を模索した。設定した問いが、誰に対して、どのような価値があるか道徳的な観点から考察し、問いの刷新を繰り返した。問いの検証段階では、中には地域のリアルを探るためオンラインも駆使して外部人材へインタビュー調査を行ったり、現地調査へ赴いたりするなどのアクションを行う生徒も見られた。また、情報科で Google Form を使った経験を生かし、公民科でも Google Form を用いてアンケートを作成して地域住民や保護者対象の調査を行う生徒もいた。

学習プログラムの進行中には新型コロナウイルス感染拡大に伴う臨時休校もあったが、Google Classroom を活用して学習ログを残し、コロナ禍でも自己調整しながら臆することなくオンライン上で対話的な学びを進めていった。最終的に、地域の「ありたい未来」を実現するために探究した成果は、全校生徒及び地元中学2年生の前で発表した。成果発表の場は、教育活動の関係者や地域住民、地元企業等に公開し、社会へ広く還元した。



一人一画面でオンラインインタビューに臨む



川根地域交流会の様子

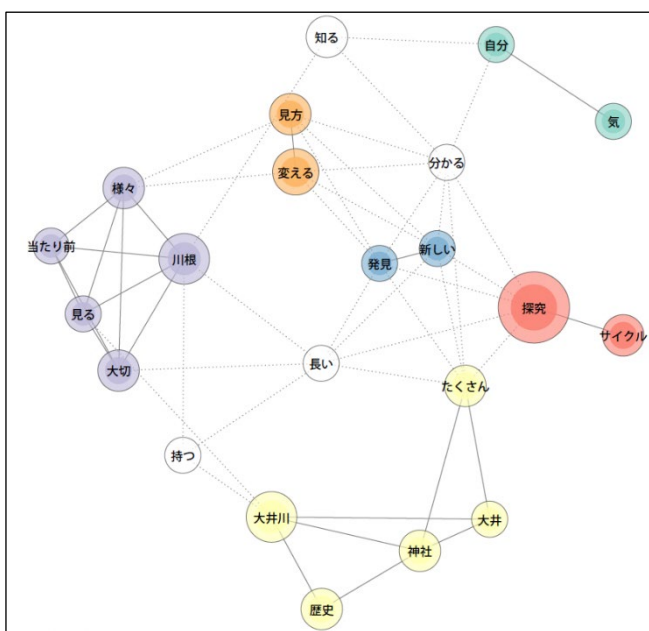
成 果

(1) 生徒の変容

- ① 主権者として必要な資質・能力「ア 社会の基本原理についての理解や、政治・経済に関する知識」の活用（学習プログラム①）

学習プログラム①の締めくくりに総合的な探究の時間で実施した職業人インタビューにおいて、生徒Aは「〇〇の授業で習ったことがあるんですが」と前置きしながら聞き取りを重ね、最終的に「社会人としてのこだわり」について質問していた。すでに持っている知識や経験と授業で習得した「知識・技能」を用いてインタビューを行った証左であろう。

生徒が習得した知識・技能を活用し、課題を解決しようと行動する背景には、多くの教育活動にて探究サイクルを回すことが習慣化したことがあるのではないだろうか。例えば、学習プログラム①の約4ヶ月後に実施した、全校生徒対象の講演会があげられる。演題「大井川流域の歴史と民俗～信仰から川根地域の特色を探る～」の生徒感想文をデータ化し、計量テキスト分析ソフト KH Coder を用いて共起ネットワーク分析で言葉の結びつきを探ったところ（出現回数3回以上）



講演会感想文の共起ネットワーク

「探究サイクル」が「分かる」「新しい発見」と共起していた。さらに、「分かる」は「見方を変える」「自分が気になること」

と近接して抽出された。講演で探究という用語が直接使われることはなかった点に鑑みると、生徒は講演内容を今までの蓄積と結びつけて聞き、その内容を「探究サイクル」という語に置き換えて解釈したものと判断される。

<他地域でも参考になると考えられる工夫>

- ・ 職業人インタビューの学習成果を地域へ広く還元する手段として、町広報誌を活用した。

<関係機関等との連携・協働における工夫>

- ・ 町広報誌への連載にあたり、次年度予算案を策定する前に町役場への交渉を始めた。
- ・ 地域の企業経営者等への協力依頼及び連絡調整に、商工会議所と青年会議所に仲介役を担ってもらった。

② 主権者として必要な資質・能力「ウ 事実を基に多面的・多角的に考察し、判断する力」の強まり（学習プログラム②）

右は、学習プログラム②で実際の選挙を扱った際、生徒Bが地元新聞社の読者投書欄に投稿した文章である。生徒Bは、授業で選挙について考えるに従って本人も驚くほど自分事化が進み、自身の変容に成長を感じた。

このことは、一定期間同じ手法を用いることで身に付けさせたい資質・能力の育成を図れることを示している。その土壌には他者との対話がある。候補者の掲げる公約を比較・検討し、周囲と意見交換する中で、候補者の主張をどう評価するかは人によって異なることに生徒Bは気づく。こういったやり取りをとおしてメタ認知が進み、最終的には自身の価値判断基準を形成していったことがわかる。また、キャリア形成の過程で選挙を自己との関わりの中で捉え、その過程自体を楽しむ様子もありありと伝わってくる。

私が今回行われる参院静岡選挙区補欠選挙を迎えるにあたり大切にしたいことは、それぞれの政策を比較し、自分の考えだけではなく、他者の意見も取り入れることだ。選挙について考えるのは今年で三度目だが、回数が増すたびに自分事として深く考えることができ

るようになった。最初は選挙に関心がなかった自分が、今では自主的に学んでいて、自分自身の成長にとっても驚いている。今回の選挙は国に

関係する大規模なものなので、すごく楽しみだ。自分だけで考えるのではなく、他者の意見も積極的に取り入れ、最後は自分なりの考えをも

って授業での模擬投票をしたいと思っている。この後は、衆院選も控えている。地元の川根本町長選から国に関係する大きな選挙まであった十月は、あらゆることを考える機会があり貴重な体験をした。

新聞に掲載された生徒Bの投書内容

＜他地域でも参考になると考えられる工夫＞

- ・ クラウドを用いることで短縮できた時間で投票補助 web ツールを利用した。
- ・ 投票所を再現し、投票箱と投票用紙を作成して実際と同じ方法で投票した。
- ・ 特別活動にて、町選挙管理委員会と連携して同じ形式で生徒会長選挙を行った。
- ・ 名簿対照や投票用紙の計測、開票といった投票事務も実際どおり進めた。

＜具体的政治事象を取り扱うにあたり政治的中立性を確保するための工夫＞

- ・ 事前に管理職から実施の承認を得る。
- ・ 政党名や候補者名を教員が言わない（最初に出した名の印象が強く残りがち）。
- ・ 届け出順であっても候補者名を教員は板書せず、争点のみ提示する（同上）。
- ・ 新聞は複数紙を用いる（新聞社の論調による情報の偏りを防ぐため）。
- ・ 授業時間内に教室で投票するが、自由投票とする（任意投票制）。
- ・ 投票した政党名や候補者名は生徒同士でも言わない（投票の秘密保持）。
- ・ 模擬投票は実際の結果が判明した後に開票する（人気投票の公表の禁止）。

③ 主権者として必要な資質・能力「エ 課題を発見しその解決に向けて協働的に追究し、納得解を見出そうとする力」の深まり（学習プログラム③）

下は、学習プログラム③でバーチャル株式投資を経験した際に生徒Cが振り返りシートに書いた内容である。生徒Cは過去にポイント投資やポイント運用等をした経験がなく、今回初めて「投資をする機会」を得たため不安が大きかった。そこで、周囲と意見交換しながら投資先選定の目を養うことを心がけ、その中で投資は企業の成長を支え、結果的によりよい生活環境や質の高いサービスを手に入れられることを学んだ。さらに生徒Cは、

投資先選定には多様な社会観が反映されていることに気づく。投資する以上は儲けたいが、投資行動が地域づくりにつながるのであれば、理想とする地域の姿を多くの人が話し合い、納得解を見出すことがより社会的価値の高い投資を誘発するのではないか、という仮説を抱き始めたことが感じられる。

どの企業に投資するか探するとき、自分1人の考えではなく、他の人の意見をよく聞くようにした。株価チャートの伸びだけでなく、社員の労働環境やSDGs、障がいのある人への配慮等、人によって気にする点が違っていった。投資は個人個人がやることだけど、こんな地域になってほしいからこの企業を応援したいとか、投資前に話し合えれば生きづらさを抱える人がもっと減ると思った。

＜他地域でも参考になると考えられる工夫＞

- ・ 実際の株式市場を反映させている投資学習プログラムを活用した。

＜地域の現実的課題を自分との関わりの中で捉えられるようにする工夫＞

- ・ 投資先を考える際、自分が興味を持っていることを実現してくれそうな企業探しから始め、その企業が地域経済とどう関わっているかを分析することで、地方創生に結びつけた。
- ・ 株価チャートのみならず、川根本町が直面する現実的課題をより正確に把握するため各種データを深掘りした。

④ 主権者として必要な資質・能力「イ 社会的事象や地域課題を自分事として捉えようとする態度」の高まり（学習プログラム④）

右は、学習プログラム④で地域の「ありたい未来」について学びを深めた後、生徒Dが地元新聞社の読者投書欄に投稿した文章である。デザイン系専門学校へ進学する生徒Dは、衰退しつつある地域産業の再生策を、自らの進路と結びつけて考えた。人口減少に伴って増えた空き家を利用して古着フリーマーケットを開催するという提案は、地球環境に配慮しようとするグローバルな視点と、町が抱える現実的課題を逆手にとって地域再生の端緒にしようとするローカルな視点が、自らの進路とその先にある職業生活に融合して出てきた発想といえる。さらに、若者の嗜好を分析して、古着のリサイクルのみならず、古着のアップサイクルにも着目している点は興味深い。

主題設定の理由で触れたように、生徒の半数以上は地元外の中学校出身であり、地域に対する当事者性を必ずしも十分に高めているとはいえない状況下で、生徒Dのように社会的事象や地域課題を自分事として捉える学習経験ができた生徒が生まれたのは非常に意義深く、大きな成果といえよう。

川根本町では人口減少と高齢化が進み、過疎地域となつてい
る。それにより産業
の衰退も進んでいる。
また空き家が増えて、
町独自の行事は少な
くなつていく。
そこで私は、ファ
ッションを通して今
まであった産業を支
えようとにも、新し
い行事や産業をつく
り出せないかと考え
た。環境を考え、今
ファッション界では
古着などのサステナ
ブルファッションが
流行している。
空き家を利用して
フリーマーケットを
開いてはどうだろう
か。古着は、町の人
などから集めたり、
昔からある藍やお茶
で染めたりして売っ
てみるのも良いかも
しれない。古着は、
古着でしか味わえな
い風合いが魅力で、
若者の関心が高い。
川根本町の町並みも
生かせば、多くの
人が来るきっかけに
なると思う。

新聞に掲載された生徒Dの投書内容

＜他地域でも参考になると考えられる工夫＞

- ・ 「町が直面する現実的課題にどう対処するか」を共通言語にして、教科間のみならず異校種間でも連携した。
- ・ オンラインで接続する際、1台のモニタに複数の生徒が映る環境だと、周囲に遠慮して対話が進まない事態が発生した。同じ空間にいながらも個々に端末を与え、一人一画面で映るようにしたところ、遠慮がなくなり活発な対話が展開された。

＜関係機関等との連携・協働における工夫＞

- ・ 外部人材には、単発の関わりではなく、教育活動の伴走者として継続的に関わるようにしてもらった。

⑤ 主権者として必要な資質・能力「オ よりよい社会の実現を視野に、社会形成に参画しようとする力」の広まり（学習プログラム①②③④）

下は、学年末に1年間の振り返りとして生徒が書いた記述内容である。

地元中学校出身である生徒Eは、かつては自分と無関係な誰かの手によって社会が形成されると考えていた。しかし、町が直面する現実的課題に向き合い、その解決に向け協働的に探究する活動をとおして、社会に参画する自立した主体とは何なのかを問い直した。結果として、よりよい社会をつくる要因についての考えが大きく変容し、自分自身も社会を形成する一員であると考ええるようになった。最終的に、人間と社会の関係性がどうあるべきか自分なりの価値観を形成し、自他共に納得できる解決方法を模索しながら行動することが大切であるとの結論に辿り着いた。地元外の中学校出身である生徒Fは、未来から今を捉えるバックキャスト思考の学習経験が楽しく、これがきっかけとなって地元の未来を考えたいという新たな意欲が湧いた。

こういった思考変容や意欲湧出は、一朝一夕に導かれるものではないだろう。学習プログラムが「入れ子構造」（時期を置いて連鎖する仕掛け）で進む過程で課題の自分事化が促され、1年かけて醸成されたといえるのではないだろうか。地元の中学校出身者（生徒E等）も地元外の中学校出身者（生徒F等）も、高校卒業後もこのまま川根本町に留まる割合は少ない。しかし、彼らが卒業後に会う新たな社会等と関わり課題解決への意欲を深めるための原体験を高校段階で積めたことは、自立した主体として生涯にわたって社会に参画できる人材を育成する観点から、大きな意義があると考ええる。

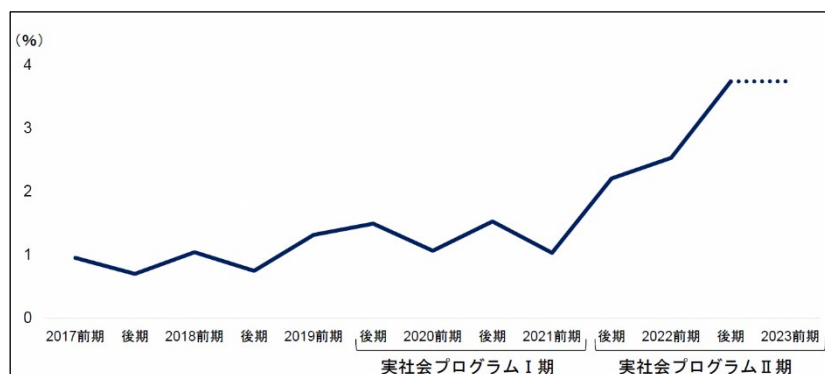
生徒E

かつて自分は、よりよい社会というのは自分達には全く関係ないと思っていた。政府がもっと対策するしかないし、勝手によりよい社会になっていくと思っていた。でも今は、色んな人との関係を築いていくことによって、よりよい社会を実現できると思うようになった。町の課題解決を考える時も一人では全然できなかったし、何でも人と関係をつくって落としどころを見つけながら行動することがよりよい社会づくりの一步だと思えるようになった点で、成長したと感じる。

生徒F

地域のことを今まであまり考えてなかったが、川根本町が抱えている課題は思っていたより多くてびっくりした。問題を解決するために提案を考えたときは、難しかったが楽しかった。今回は自分の地元ではない土地の政策を考えたので、地元のことももう少し考えてみようと思った。

また、波及的効果として、生徒会長選挙に立候補する生徒の割合が、本研究の実施期間（下図の「実社会プログラムⅡ期」）に急増している点があげられる。今自分が所属する学校というコミュニティへ主体的に参画しようとする生徒が増加しているのは意義深い。これは、正解を求めるのではなく、自他にとっての幸福・正義・公正を追究しながら時に傷つき試行錯誤を繰り返した経験が「自分たちの学校は自分たちでつくる」という当事者意識と「自分たちの学校をどうやって改善していくか」という思考習慣につながったからだと考えられる。そこには、「入れ子構造」でカリキュラム・マネジメントと社会に開かれた教育課程を実現した影響も少なからずあるだろう。



全校生徒に占める生徒会長立候補の割合

（２）学校組織としての変容

早くから探究学習を行ってきた本校であるが、本研究に取り組むまでは、担当教員各自の判断と個性を生かした努力によって実践が積み上げられていた。本研究の「入れ子構造」を具現化すると相まって組織的な体制へと変容した。

例として、全生徒が一堂に会する探究学習成果報告会を令和３年度から開始したことがあげられる。生徒は、１年間取り組んできた学習成果を自分なりの言葉で表現し、学年を越えて交流した。令和４年度はこれを発展的に拡大させ、本校の全生徒に加えて地元中学２年生も対象とした。さらに、関係機関や地域住民にも公開する場とした。これらにより、学校段階や学校という枠を越えて開かれた交流が実現された。なお、新型コロナウイルスの感染状況に対応できるよう、対面実施とオンライン実施の準備を並行して進めた。

（３）学校と関係機関との関わり方の変容

学校と地域の関係性の近さもあり、本校では関係機関との連携・協働が古くから盛んに行われてきた。たとえば、令和２年度に連携した外部人材は延べ６１名であった。ただし、その関わり方はイベントのゲストティーチャーとして単発で招くことがほとんどだった。本研究は「入れ子構造」として時期を置いて連鎖する仕掛けを施す学習プログラムであるため、関係機関とも単発的に連携・協働するのではなく、ある程度の期間をかけて継続的に連携・協働する方針をとった。たとえば、学習プログラムの導入期、中間期、まとめ期というように、複数回にわたり生徒の学習活動に伴走してもらうよう工夫した。結果的に、連携・協働した外部人材の延べ数は令和３年度に２４５名、令和４年度に２４４名にのぼった。

回数を重ねるにつれて心理的安全性が高まったのだろう、生徒は安心して自己開示するようになり、対話が弾むに伴い思考の深まりも顕著に見られた。他方、関係機関側も生徒

との関わりを楽しむようになり、時には新たな関わりが派生するなど、生成的な関係性を築き続けるようになった。このような、学校と関係機関が影響し合いながら共に成長していくプロセスは、組織の継続的な価値創出を体現する営みであったといえよう。

連携した外部人材数の推移（延べ数）

令和2年	令和3年	令和4年
61名	245名	244名

課 題

（１）関係機関との連携・協働における「２種類の共感」

共感には、「壁を取り払い立場を越えて語る共感」と「壁を設けた上でそれぞれの立場から語る共感」の２種類があることに気づいた。特に関係機関との連携・協働において、この２種類を意識的に使い分けないと議論が空中戦になる。さらには、求めているものが食い違ったり、気づかないうちに手段が目的化していたりするなどして、やがて双方から不満が出る。たとえば、高校と町役場が連携する際、生徒の成長を願う点では同じでも、責任や役割の範疇を明確にしないと実行段階に差し掛かったときに混乱することが幾度とあった。

人口減少先進地域を素材に、生徒がよりよく課題を解決して主権者として必要な資質・能力を育むには、実社会との接点が必要である。しかし、どう連携してどう協働するかを十分に対話し、目線合わせと軌道修正等を繰り返さなければ、それは絵に描いた餅になるだろう。

年 月 日

「主権者とは」

HRNO 氏名

本日の一題（ニュース検定準2級）

選挙の原則や制度について、正しい記述を①～④から一つ選びなさい。

- ア) 普通選挙とは、有権者が投票内容を他人に知られずに投票できるとする原則だ
- イ) 平等選挙とは、財産や納税額に関係なく、一定の年齢に達すれば投票できるという原則だ
- ウ) 小選挙区制は、比例代表制と比べて死票を多く生みやすいとされる
- エ) 比例代表制は、小選挙区制と比べて小党分立になりにくいとされる

本日のテーマ

あなたは何歳から主権者になりますか？

最初の考え

最後の考え

(理由)

(理由)

「平等／公平／公正」

HRNO 氏名

本日の一題（ニュース検定準2級）

パソコンやインターネットを使いこなせる人とそうでない人の情報格差を何といいますか。正しい語句を、ア～エから一つ選びなさい。

- ア) フェアトレード
- イ) デジタルデバイド
- ウ) ステルスマーケティング
- エ) デジタルサイネージ

本日のテーマ

平等／公平／公正の観点から、公共空間の在り方を考えよう

Q) ドラえもんの登場人物5名（のび太、スネ夫、ジャイアン、しずかちゃん、出来杉君）に自分を加えた6名で授業に臨む場合、どんな座席配置にすればより充実しますか？

自分の考え	グループの考え
黒板	黒板

Q) 何を基準に座席配置を考えましたか？

Q) 平等／公平／公正はどのように違うのでしょうか？

平等	
公平	
公正	

今回の授業で得た学び

新たに湧いた問い

今回の授業前の自分と比較して、自己評価しよう！

① 社会の基本原則についての理解や、政治・経済に関する知識			
理解が深まった事柄や新たに得た知識は特にな	新たな理解・知識を1つ得られた	新たな理解・知識を複数得られた	新たな理解・知識を複数得て、しかも結びつけられた
② 事実を基に多面的・多角的に考察し、判断する力			
事実を基に考察・判断していないし、する必要もない	事実を基に1つの視点から考察し、判断できた	事実を基に2つの視点から考察し、判断できた	事実を基に3つ以上の視点から考察し、判断できた
③ 社会的事実や地域課題を自分事としてとらえようとする態度			
関心を持った事柄は特にな	関心は持ったが、自分には関係ないと感じた	関心を持ち、自分事として考えられた	関心を持ち自分事として考え、より深めたく思った
④ 課題解決に向けて協働的に追究し、納得解を見出そうとする力			
協働的追究も納得解も必要ない	協働的に追究したが、納得解を見出す必要はない	協働的に追究し、納得解を見出そうとした	協働的に追究し、納得解を見出すことができた

年 月 日

「三権分立」

HRNO 氏名

本日の一題（ニュース検定5級）

介護福祉士は、お年寄りや障害のある人を介護する職業です。介護とはどのようなことをしますか。その例に当てはまらないものを、ア～エから一つ選びなさい。

- ア) 病院に行く時に付き添う
- イ) 病気やけがを診察して、治療する
- ウ) 掃除や洗濯の手助けをする
- エ) 食事や入浴、トイレの手助けをする

本日のテーマ

議院内閣制と大統領制の違いを、三権分立の観点から考えよう

今回の授業で得た学び

新たに湧いた問い

今回の授業前の自分と比較して、自己評価しよう！

① 社会の基本原理についての理解や、政治・経済に関する知識			
理解が深まった事柄や新たに得た知識は特にな	新たな理解・知識を1つ得られた	新たな理解・知識を複数得られた	新たな理解・知識を複数得て、しかも結びつけられた
② 事実を基に多面的・多角的に考察し、判断する力			
事実を基に考察・判断していないし、する必要もない	事実を基に1つの視点から考察し、判断できた	事実を基に2つの視点から考察し、判断できた	事実を基に3つ以上の視点から考察し、判断できた
③ 社会的現象や地域課題を自分事としてとらえようとする態度			
関心を持った事柄は特にな	関心は持ったが、自分には関係ないと感じた	関心を持ち、自分事として考えられた	関心を持ち自分事として考え、より深めたく思った
④ 課題解決に向けて協働的に追究し、納得解を見出そうとする力			
協働的追究も納得解も必要ない	協働的に追究したが、納得解を見出す必要はない	協働的に追究し、納得解を見出そうとした	協働的に追究し、納得解を見出すことができた

「公共の福祉」

HRNO 氏名

本日の一題（ニュース検定3級）

東京都の品川駅と愛知県の名古屋駅を結ぶ「リニア中央新幹線」の開業が、延期になる見通しです。これに関連して、新幹線について正しい説明を、ア～エから一つ選びなさい。

- ア) 東海道新幹線は、東京で初めてオリンピックが開催された1964年に開業した
- イ) 過去に新幹線が脱線した例はない
- ウ) 四国にも新幹線は開通している
- エ) リニア中央新幹線の特徴は、強い水蒸気の力で車両を浮かせて走る点だ

本日のテーマ

2つの「公共の福祉」が対立している。建設的な議論にするために、あなたは どうする？

<空港建設をめざす国 vs 立ち退きを迫られる住民>

国	住民
「空港ができれば旅行や輸送が便利になって、経済も活性化する。近隣住民にも協力していただきたい」	「ここは、先祖代々続く大事な土地。空港建設のためとはいえ、一方的な立ち退き命令は納得いかない」

Q) あなたはどちらに賛成しますか？

自分の考え	グループの考え
に賛成	に賛成
理由	理由

Q) 建設的な議論にするために、どんな提案（譲歩）をすればよいでしょうか？

大手スーパー	地方自治体
「市場経済では、どこで営業するかは自由。お客さんにも、安くて良い品を買っていただける」	「地元にねざした、小さな個人経営店を守りたい。スーパーと個人経営店が共存できないか」

に賛成	に賛成
理由	理由

今回の授業で得た学び
新たに湧いた問い

① 社会の基本原理についての理解や、政治・経済に関する知識			
理解が深まった事柄や新たに得た知識は特にはない	新たな理解・知識を1つ得られた	新たな理解・知識を複数得られた	新たな理解・知識を複数得て、しかも結びつけられた
② 事実を基に多面的・多角的に考察し、判断する力			
事実を基に考察・判断していないし、する必要もない	事実を基に1つの視点から考察し、判断できた	事実を基に2つの視点から考察し、判断できた	事実を基に3つ以上の視点から考察し、判断できた
③ 社会的事象や地域課題を自分事としてとらえようとする態度			
関心を持った事柄は特にはない	関心は持ったが、自分には関係ないと感じた	関心を持ち、自分事として考えられた	関心を持ち自分事として考え、より深めたく思った
④ 課題解決に向けて協働的に追究し、納得解を見出そうとする力			
協働的追究も納得解も必要ない	協働的に追究したが、納得解を見出す必要はない	協働的に追究し、納得解を見出そうとした	協働的に追究し、納得解を見出すことができた

「法の下の平等」

HRNO 氏名

本日の一題（ニュース検定3級）

日本では、結婚しても姓（名字）を変えたくないという声もあります。そう願う理由の例に当てはまるものを、ア～エから一つ選びなさい。

- ア) 夫婦の姓が違っていれば、同じ姓を名乗るよりも医療費が安くなるから
- イ) 夫婦の姓が違っていれば、子育てのために国から受け取る児童手当が増えるから
- ウ) 結婚により自分の姓が変わると、親の遺産を相続できなくなるから
- エ) 結婚により自分の姓が変わると、仕事を続けるうえで不便だから

本日のテーマ

「法の下の平等」と平等観の変化を考えよう

＜尊属殺人重罰規定の違憲判決＞

1968年 父親に虐待された29歳の娘が、泥酔中の父親を絞殺した。

→1973年最高裁が違憲判決

刑法

第199条 人ヲ殺シタ者ハ、死刑又ハ無期若クハ3年以上ノ懲役ニ処ス。

第200条 自己又ハ配偶者ノ直系尊属ヲ殺シタル者ハ、死刑又ハ無期懲役ニ処ス。

Q) 裁判官は、どちらの条文を違憲と判断したのでしょうか？

刑法第____条

Q) その条文のどの部分が、どのように違憲なのでしょうか？

＜自分の考え＞

＜正解＞

＜国籍法婚外子差別の違憲判決＞

Q) 国際結婚した場合、子どもの国籍はどうなるのでしょうか？（国籍法の規定）

1950 年制定

1984 年改正

この国籍法規定（1984 年改正）だと、「未婚の日本人男性と外国人女性の上に生まれ、誕生後に父親から認知された子ども」には、日本国籍が（ 認められる / 認められない ）

↓

2006 年、この法律は違憲ではないかとの訴えあり→2008 年最高裁が違憲判決

Q) どの部分が、どのように違憲なのでしょう？

Q) 2008 年にどのように改正されたのでしょうか？

今回の授業で得た学び

新たに湧いた問い

今回の授業前の自分と比較して、自己評価しよう！

① 社会の基本原則についての理解や、政治・経済に関する知識			
理解が深まった事柄や新たに得た知識は特にな	新たな理解・知識を1つ得られた	新たな理解・知識を複数得られた	新たな理解・知識を複数得て、しかも結びつけられた
② 事実を基に多面的・多角的に考察し、判断する力			
事実を基に考察・判断していないし、する必要もない	事実を基に1つの視点から考察し、判断できた	事実を基に2つの視点から考察し、判断できた	事実を基に3つ以上の視点から考察し、判断できた
③ 社会的現象や地域課題を自分事としてとらえようとする態度			
関心を持った事柄は特にな	関心は持ったが、自分には関係ないと感じた	関心を持ち、自分事として考えられた	関心を持ち自分事として考え、より深めたく思った
④ 課題解決に向けて協働的に追究し、納得解を見出そうとする力			
協働的追究も納得解も必要ない	協働的に追究したが、納得解を見出す必要はない	協働的に追究し、納得解を見出そうとした	協働的に追究し、納得解を見出すことができた

Q) あなたが次のような立場だったら、死刑制度に対する意見は変わりますか？

・被害者の子 → 賛成 / 反対

＜理由＞

・判決を決める裁判員 → 賛成 / 反対

＜理由＞

・死刑確定者 → 賛成 / 反対

＜理由＞

・死刑確定者の子 → 賛成 / 反対

＜理由＞

・死刑を執行する刑務官 → 賛成 / 反対

理由

今回の授業で得た学び

新たに湧いた問い

今回の授業前の自分と比較して、自己評価しよう！

① 社会の基本原則についての理解や、政治・経済に関する知識			
理解が深まった事柄や新たに得た知識は特にない	新たな理解・知識を1つ得られた	新たな理解・知識を複数得られた	新たな理解・知識を複数得て、しかも結びつけられた
② 事実を基に多面的・多角的に考察し、判断する力			
事実を基に考察・判断していないし、する必要もない	事実を基に1つの視点から考察し、判断できた	事実を基に2つの視点から考察し、判断できた	事実を基に3つ以上の視点から考察し、判断できた
③ 社会的事象や地域課題を自分事としてとらえようとする態度			
関心を持った事柄は特にない	関心は持ったが、自分には関係ないと感じた	関心を持ち、自分事として考えられた	関心を持ち自分事として考え、より深めたく思った
④ 課題解決に向けて協働的に追究し、納得解を見出そうとする力			
協働的追究も納得解も必要ない	協働的に追究したが、納得解を見出す必要はない	協働的に追究し、納得解を見出そうとした	協働的に追究し、納得解を見出すことができた

「裁判員制度」

HRNO 氏名

本日の一題（ニュース検定２級）

日本の死刑制度について正しい記述を、ア～エから一つ選びなさい。

- ア) 再審請求中の死刑確定者に対する死刑執行は、法律で禁じられている
- イ) 最高裁判所は「死刑は残虐な刑罰だ」という判断を示したことがある
- ウ) 法定刑に死刑が含まれる重大事件の公判は、裁判員裁判の対象外だ
- エ) 最高裁判所が示した死刑適用基準は「永山基準」と呼ばれている

本日のテーマ

司法における国民主権を実現するために、今後の課題は何か考えよう

Q) 裁判員制度とは、どのような制度でしょうか？

法廷

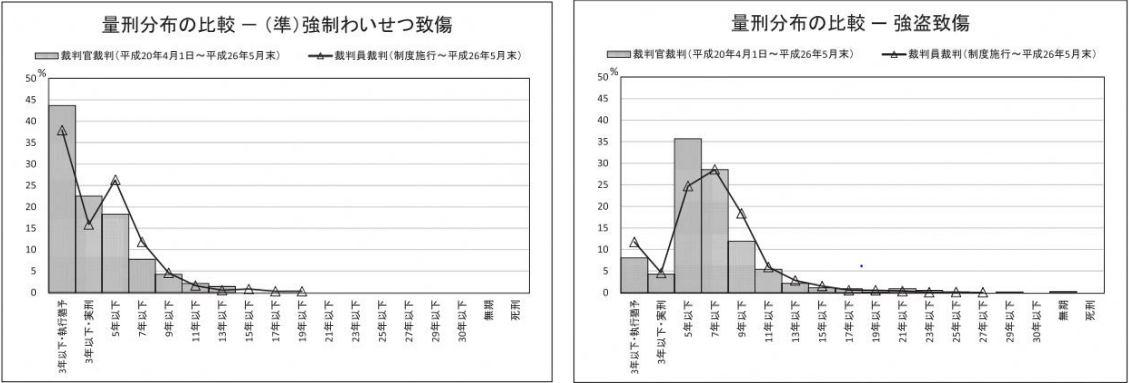
傍聴人席

Q) 裁判員制度は、なぜ導入されたのでしょうか？

Q) 自分が裁判員に選ばれたら、辞退できるのでしょうか？

Q) どんな裁判を扱うのでしょうか？

Q) 裁判員制度が導入されて、量刑判断はどう変わったのでしょうか？



今回の授業で得た学び
新たに湧いた問い

今回の授業前の自分と比較して、自己評価しよう！

① 社会の基本原理解について理解や、政治・経済に関する知識			
理解が深まった事柄や新たに得た知識は特にな	新たな理解・知識を1つ得られた	新たな理解・知識を複数得られた	新たな理解・知識を複数得て、しかも結びつけられた
② 事実を基に多面的・多角的に考察し、判断する力			
事実を基に考察・判断してないし、する必要もない	事実を基に1つの視点から考察し、判断できた	事実を基に2つの視点から考察し、判断できた	事実を基に3つ以上の視点から考察し、判断できた
③ 社会的事象や地域課題を自分事としてとらえようとする態度			
関心を持った事柄は特にな	関心は持ったが、自分には関係ないと感じた	関心を持ち、自分事として考えられた	関心を持ち自分事として考え、より深めたく思った
④ 課題解決に向けて協働的に追究し、納得解を見出そうとする力			
協働的追究も納得解も必要ない	協働的に追究したが、納得解を見出す必要はない	協働的に追究し、納得解を見出そうとした	協働的に追究し、納得解を見出すことができた

「司法権の独立」

HRNO 氏名

本日の一題（ニュース検定2級）

「1票の格差」を巡る訴訟で最高裁判所が採用してきた「事情判決の法理」とはどのような考え方ですか。正しい記述をア～エから一つ選びなさい。

- ア) 選挙無効の訴えの1審は、有権者の利便性を考慮して高等裁判所で開くべきだ、という考え方だ
- イ) 大都市への人口集中、地方の過疎化という社会的事情を考慮して、「違憲」判決を出すのは慎重にすべきだ、という考え方だ
- ウ) 投票価値に「著しい不平等」はあるものの、格差是正に必要な時間（合理的期間）がまだ過ぎていないと裁判所が判断すれば「合憲」判決を出す、という考え方だ
- エ) 「違憲」判決を言い渡す場合でも、混乱を避けるため選挙は有効とし、「選挙無効」の訴えを退けることができる、という考え方だ

本日のテーマ

大津事件を題材に、公正な裁判に必要なことについて考えよう

Q) 大津事件とはどんな事件だったのでしょうか？



ロシア皇太子ニコライ



津田三蔵巡査

Q) 政府関係筋はどのような動きをしたのでしょうか？これに対し、大審院長はどのように対応したのでしょうか？



当時は宮中顧問
()



首相
松方正義



大審院長（当時の最高裁長官）
()

Q) 大審院長がこのような対応をとったのはなぜでしょうか？当時の刑法を根拠に説明してください。

刑法（当時）

第 116 条 天皇三后皇太子ニ対シ危害ヲ加ヘ又ハ危害ヲ加ヘントシタル者ハ死刑ニ処ス

第 292 条 予メ謀リテ人ヲ殺シタル者ハ…死刑ニ処ス

第 112 条 罪ヲ犯サントシテ…未ダ遂ゲザル時ハ…遂ゲタル者ノ刑ニ 1 等又ハ 2 等ヲ減ズ

Q) 大津事件からわかる、公正な裁判に必要なことは何でしょうか？

①

②

今回の授業で得た学び

新たに湧いた問い

今回の授業前の自分と比較して、自己評価しよう！

① 社会の基本原則についての理解や、政治・経済に関する知識			
理解が深まった事柄や新たに得た知識は特にない	新たな理解・知識を 1 つ得られた	新たな理解・知識を複数得られた	新たな理解・知識を複数得て、しかも結びつけられた
② 事実を基に多面的・多角的に考察し、判断する力			
事実を基に考察・判断していないし、する必要もない	事実を基に 1 つの視点から考察し、判断できた	事実を基に 2 つの視点から考察し、判断できた	事実を基に 3 つ以上の視点から考察し、判断できた
③ 社会的事象や地域課題を自分事としてとらえようとする態度			
関心を持った事柄は特にない	関心は持ったが、自分には関係ないと感じた	関心を持ち、自分事として考えられた	関心を持ち自分事として考え、より深めたく思った
④ 課題解決に向けて協働的に追究し、納得解を見出そうとする力			
協働的追究も納得解も必要ない	協働的に追究したが、納得解を見出す必要はない	協働的に追究し、納得解を見出そうとした	協働的に追究し、納得解を見出すことができた

「新しい人権」

HRNO 氏名

本日の一題（ニュース検定5級）

日本国憲法は、さまざまな「基本的人権」を国民に保障しています。基本的人権の例に当てはまらないものを、ア～エから一つ選びなさい。

- ア) 一定の年齢になれば、国会議員などを選ぶ選挙で投票できる
- イ) 税金を国や地方自治体に納める
- ウ) 人種や性別、信条などを理由に差別されない
- エ) 自分の意見を書物などで自由に発表する

本日のテーマ

幸福・正義・公正の観点から、新しい人権について考えよう

＜Case 1＞

ある町で、ひったくり被害が多発しています。監視カメラを設置すべきでしょうか？

設置すべき

「最新の監視カメラであれば、町で起きたことをすべて記録できるので、町の安全が守られる」
(安全を守ることが重要)

設置すべきではない

「最新の監視カメラは、町で起きたことをすべて記録するため、人々のプライバシーが守られない恐れがある」
(プライバシーを守ることが重要)

Q) 双方が納得できる解決策を考え、提案してみましょう。

<Case 2>

クローン技術を用いた食料が生産されています。クローン技術を積極的に活用して、社会の発展をめざすべきでしょうか？

生命の尊厳を優先すべき

「クローン技術を応用すれば、自分の臓器を再生するためのクローン人間をつくることも可能である。しかしそれでは、生命を単なる道具として扱い、人間にとって生命の尊厳を損なうことにつながる」

食料の増産を優先すべき

「世界では8億人以上が飢えに苦しむ。クローン技術を応用すれば、肉質の良い豚や乳量の多い牛などを大量生産でき、人々の健康で幸福な生活を守ることに貢献する」

Q) 双方が納得できる解決策を考え、提案してみましょう。

今回の授業で得た学び

新たに湧いた問い

今回の授業前の自分と比較して、自己評価しよう！

① 社会の基本原則についての理解や、政治・経済に関する知識			
理解が深まった事柄や新たに得た知識は特にない	新たな理解・知識を1つ得られた	新たな理解・知識を複数得られた	新たな理解・知識を複数得て、しかも結びつけられた
② 事実を基に多面的・多角的に考察し、判断する力			
事実を基に考察・判断していないし、する必要もない	事実を基に1つの視点から考察し、判断できた	事実を基に2つの視点から考察し、判断できた	事実を基に3つ以上の視点から考察し、判断できた
③ 社会的現象や地域課題を自分事としてとらえようとする態度			
関心を持った事柄は特にない	関心は持ったが、自分には関係ないと感じた	関心を持ち、自分事として考えられた	関心を持ち自分事として考え、より深めたく思った
④ 課題解決に向けて協働的に追究し、納得解を見出そうとする力			
協働的追究も納得解も必要ない	協働的に追究したが、納得解を見出す必要はない	協働的に追究し、納得解を見出そうとした	協働的に追究し、納得解を見出すことができた

「選挙制度のしくみ」

HRNO 氏名

本日の一題（ニュース検定2級）

最近の参議院議員選挙や衆議院議員選挙について、正しい記述をア～エから一つ選びなさい。

- ア) 2019 年参院選：比例代表選挙で、各党・団体が候補者名簿の一部に事前に当選順位をつける「特別枠」を設定できるようになった
- イ) 2019 年参院選：議員 1 人あたりの有権者数が比較的少ない 4 選挙区（県）が、初めて合区として「鳥取・島根」「徳島・高知」にまとめられた
- ウ) 2021 年衆院選：2020 年の国勢調査に基づく「アダムズ方式」が初めて導入される
- エ) 2021 年衆院選：海外に住む日本人が PC やスマホで投票できるようにするため、インターネットでの在外投票が導入される

本日のテーマ

日本の国政選挙のしくみを理解しよう

Q) 衆議院選挙では、なぜ小選挙区比例代表並立制を採用するのでしょうか？

小選挙区選挙				比例代表選挙	
A 選挙区 有権者 20,000 人		B 選挙区 有権者 10,000 人		A+B ブロック 有権者 30,000 人	
中居くん	12,000 票	キムタク	4,000 票	嵐党	20,000 票
松潤	6,000 票	桜井くん	3,500 票	SMAP 党	14,000 票
長瀬くん	2,000 票	国分くん	2,500 票	TOKIO 党	6,000 票

Q) 衆議院選挙における、比例代表選挙のドント式を理解しましょう。

A+B ブロックから 6 名を選出する場合

名簿届出政党名	嵐党	SMAP 党	TOKIO 党
名簿登載者数	4 人	3 人	2 人
得票数	20,000 票	14,000 票	6,000 票
÷ 1			
÷ 2			
÷ 3			
÷ 4			
当選人数			

Q) 参議院選挙の比例代表選挙当選者数を6名とする場合、当選者は誰ですか？

名簿届出政党名	3年部党	2年部党	1年部党
名簿登載者数	6人	6人	6人
得票数	50,000票	30,000票	10,000票
÷ 1			
÷ 2			
÷ 3			
÷ 4			
当選人数			

<各党の得票数内訳>

3年部党 29,900票	2年部党 15,900票	1年部党 1,900票
渡邊 3,100票	久保池 2,100票	佐々木 1,100票
水野 3,200票	豊島 2,200票	中澤 1,200票
松岡 3,300票	長澤 2,300票	廣岡 1,300票
遠山 3,400票	市川 2,400票	横山 1,400票
堤 3,500票	内藤 2,500票	大塚 1,500票
池田 3,600票	森下 2,600票	石神 1,600票
計 50,000票	計 30,000票	計 10,000票

当選者は_____

今回の授業で得た学び 新たに湧いた問い
--

今回の授業前の自分と比較して、自己評価しよう！

① 社会の基本原則についての理解や、政治・経済に関する知識			
理解が深まった事柄や新たに得た知識は特にな	新たな理解・知識を1つ得られた	新たな理解・知識を複数得られた	新たな理解・知識を複数得て、しかも結びつけられた
② 事実を基に多面的・多角的に考察し、判断する力			
事実を基に考察・判断していないし、する必要もない	事実を基に1つの視点から考察し、判断できた	事実を基に2つの視点から考察し、判断できた	事実を基に3つ以上の視点から考察し、判断できた
③ 社会的事象や地域課題を自分事としてとらえようとする態度			
関心を持った事柄は特にな	関心は持ったが、自分には関係ないと感じた	関心を持ち、自分事として考えられた	関心を持ち自分事として考え、より深めたく思った
④ 課題解決に向けて協働的に追究し、納得解を見出そうとする力			
協働的追究も納得解も必要ない	協働的に追究したが、納得解を見出す必要はない	協働的に追究し、納得解を見出そうとした	協働的に追究し、納得解を見出すことができた

「参議院選挙 2022」

HRNO 氏名

本日の一題（ニュース検定準2級）

日本での選挙運動に関連して正しいものを、ア～エから一つ選びなさい。

- ア) 選挙運動期間中、知人にメールを送って、特定の候補者への投票を依頼してよい
- イ) 選挙運動期間中、戸別訪問により候補者が投票を呼びかけてはならない
- ウ) 候補者以外の者の選挙違反により候補者本人の当選が無効になる「連座制」は、「法の下での平等」に反するとして廃止された
- エ) 有権者の高校生が校内で政治活動することは、18歳選挙権と同時に解禁された

本日のテーマ

参議院選挙 2022 をとおして、有権者として必要なことは何か考えよう

Q) あなたは何を基準に投票しますか？

事前	事後

今回の授業で得た学び

新たに湧いた問い

今回の授業前の自分と比較して、自己評価しよう！

① 社会の基本原理についての理解や、政治・経済に関する知識			
理解が深まった事柄や新たに得た知識は特になし	新たな理解・知識を1つ得られた	新たな理解・知識を複数得られた	新たな理解・知識を複数得て、しかも結びつけられた
② 事実を基に多面的・多角的に考察し、判断する力			
事実を基に考察・判断していないし、する必要もない	事実を基に1つの視点から考察し、判断できた	事実を基に2つの視点から考察し、判断できた	事実を基に3つ以上の視点から考察し、判断できた
③ 社会的事象や地域課題を自分事としてとらえようとする態度			
関心を持った事柄は特になし	関心は持ったが、自分には関係ないと感じた	関心を持ち、自分事として考えられた	関心を持ち自分事として考え、より深めたく思った
④ 課題解決に向けて協働的に追究し、納得解を見出そうとする力			
協働的追究も納得解も必要ない	協働的に追究したが、納得解を見出す必要はない	協働的に追究し、納得解を見出そうとした	協働的に追究し、納得解を見出すことができた

「囚人のジレンマ」

HRNO 氏名

本日の一題（ニュース検定級）

国際紛争などを巡る軍事行動の例ア～エのうち、武力行使容認を明示した国連安全保障理事会（安保理）決議に基づくものを、一つ選びなさい。

- ア) クウェートに侵攻したイラクを、米国などの多国籍軍が空爆した（1991 年）
- イ) コソボの独立を巡る紛争で、北大西洋条約機構（NATO）軍が旧ユーゴスラビアを空爆した（1999 年）
- ウ) 米同時多発テロ後、米軍などがイラクを攻撃した（2003～11 年）
- エ) シリアの内戦でアサド政権が化学兵器を使ったとして、米軍などがシリアの化学兵器関連施設を攻撃した（2018 年）

本日のテーマ

思考実験「囚人のジレンマ」をとおして、協働することの難しさと大切さを考えよう！

＜場面設定＞

ある国で、軽犯罪で捕まった囚人Aと囚人Bは、別の重犯罪にも関与しているようだ。しかし証拠不十分で、2人の自白が捜査のカギとなる。そこで、検察官は2人に対して個別に、以下の条件を提示した。

- ・ 2人とも黙秘を続けたら、軽犯罪によりそれぞれ懲役3年となる
- ・ どちらか片方だけが自白したら、自白した側は捜査協力と引き換えに懲役1年となるが、黙秘した側は重犯罪を行い反省もないため懲役10年となる
- ・ 2人とも自白したら、重犯罪を共謀したとしてそれぞれ懲役7年となる

Q) あなたが囚人だったら、自白か黙秘か、どちらを選択しますか？下の空欄を埋めながら考えてみましょう。

		囚人B	
		黙秘	自白
囚人A	黙秘	Aに懲役（ ）年	Aに懲役（ ）年
		Bに懲役（ ）年	Bに懲役（ ）年
	自白	Aに懲役（ ）年	Aに懲役（ ）年
		Bに懲役（ ）年	Bに懲役（ ）年

- ・ 囚人Aが合理的に判断するとしたら、囚人Bが「黙秘」を選択した場合、自分は（ ）を選択すべきである。
- ・ 囚人Bが「自白」をした場合、自分は（ ）を選択すべきである。
- ・ 2人の懲役年数の合計が最小となるのは、2人とも（ ）を選択した場合である。

＜模試問題にチャレンジ！2018年度9月高3生第1回ベネッセ駿台マーク模試＞

国際的な危機がどのような要因によってエスカレートするのかを、次の場合で考える。A国とB国は互いに相談できない状況にあり、両国のとりうる戦略は「軍備拡大（軍拡）」か「軍備縮小（軍縮）」の2つで、いずれかを選択する。ルールは次のとおり。

- ・両国がともに軍縮した場合、余った予算を経済や福祉面に支出できる（＋1点）
- ・両国がともに軍拡した場合、脅威が増すだけである（－1点）
- ・一方が軍拡し、他方が軍縮した場合、軍拡した国は軍事的優位に立ち（＋2点）、軍縮した国は相手国からの脅威が増す（－3点）

Q) 両国は自国が得る得点の最大化だけをめざすとする、この表から読み取れる内容として最も適当なものを選べ。

		B 国	
		軍備縮小	軍備拡大
A 国	軍備縮小	A 国に＋1点	A 国に－3点
		B 国に＋1点	B 国に＋2点
	軍備拡大	A 国に＋2点	A 国に－1点
		B 国に－3点	B 国に－1点

- A) A国が最も高い点数を得るには「軍縮」を選択する必要があるが、それにはB国が「軍拡」を選択するという条件が必要である
- B) A国が「軍拡」を選択する場合、B国がより高い点数を得るには「軍縮」を選択する必要がある
- C) A国とB国がともに「軍拡」を選択すれば、両国の得点の合計は最小になるが、相手国の戦略が読めない以上、両国は「軍拡」を選択することになる
- D) A国とB国がともに「軍縮」を選択すれば、両国の得点の合計は最大になるので、相手国の戦略が読めなくとも、両国は「軍縮」を選択することになる

今回の授業で得た学び

新たに湧いた問い

今回の授業前の自分と比較して、自己評価しよう！

① 社会の基本原則についての理解や、政治・経済に関する知識			
理解が深まった事柄や新たに得た知識は特にな	新たな理解・知識を1つ得られた	新たな理解・知識を複数得られた	新たな理解・知識を複数得て、しかも結びつけられた
② 事実を基に多面的・多角的に考察し、判断する力			
事実を基に考察・判断していないし、する必要もない	事実を基に1つの視点から考察し、判断できた	事実を基に2つの視点から考察し、判断できた	事実を基に3つ以上の視点から考察し、判断できた
③ 社会的事象や地域課題を自分事としてとらえようとする態度			
関心を持った事柄は特にな	関心は持ったが、自分には関係ないと感じた	関心を持ち、自分事として考えられた	関心を持ち自分事として考え、より深めたく思った
④ 課題解決に向けて協働的に追究し、納得解を見出そうとする力			
協働的追究も納得解も必要ない	協働的に追究したが、納得解を見出す必要はない	協働的に追究し、納得解を見出そうとした	協働的に追究し、納得解を見出すことができた

年 月 日

「株式投資」

HRNO 氏名

本日の一題（ニュース検定 4 級）

「 」産業は日本を支える代表的な産業です。「 」に当てはまる言葉を、ア～エから選びなさい。

- ア) 石油
- イ) 自動車
- ウ) 繊維
- エ) 食品

本日のテーマ

株式投資をととして社会参加するとはどういうことか考えよう

Q) 元本 500 万円でああなたが購入した銘柄の上位 5 社を書き出しましょう。

	1 社目	2 社目	3 社目	4 社目	5 社目
銘柄					
1 株の値段					
売買単位					
購入口数					
投資額					

購入総額 _____ 円 (a)

Q) どんな視点で銘柄を選びましたか？

Q) 自分が購入した株価は、どう変動したのでしょうか？

	1 社目	2 社目	3 社目	4 社目	5 社目
1 株の値段					
評価額					

総額 _____ 円 (b)

(b) - (a) = 私は 円 (得 ・ 損) をした

Q) 株式投資をとおして社会参加するとはどういうことでしょうか？

今回の授業で得た学び

新たに湧いた問い

今回の授業前の自分と比較して、自己評価しよう！

① 社会の基本原則についての理解や、政治・経済に関する知識			
理解が深まった事柄や新たに得た知識は特にな	新たな理解・知識を1つ得られた	新たな理解・知識を複数得られた	新たな理解・知識を複数得て、しかも結びつけられた
② 事実を基に多面的・多角的に考察し、判断する力			
事実を基に考察・判断してないし、する必要もない	事実を基に1つの視点から考察し、判断できた	事実を基に2つの視点から考察し、判断できた	事実を基に3つ以上の視点から考察し、判断できた
③ 社会的現象や地域課題を自分事としてとらえようとする態度			
関心を持った事柄は特にな	関心は持ったが、自分には関係ないと感じた	関心を持ち、自分事として考えられた	関心を持ち自分事として考え、より深めたく思った
④ 課題解決に向けて協働的に追究し、納得解を見出そうとする力			
協働的追究も納得解も必要ない	協働的に追究したが、納得解を見出す必要はない	協働的に追究し、納得解を見出そうとした	協働的に追究し、納得解を見出すことができた

「1年間の振り返り」

HRNO 氏名

本日のテーマ

公民科の授業を1年間振り返り、自分の成長と課題を見える化しよう。

Q1)「この授業をとおしてこんな力が伸びた!」と思えるところに○をつけましょう。

主題	ノートの見出し	ワークシート	知	多	自	協
青年期と社会参画	青年期と自己形成	主権者とは				
倫理と個人の尊重		平等・公平・公正				
		道徳のジレンマ				
日本国憲法	民主政治の基本原則	三権分立				
	日本国憲法と基本的人権	公共の福祉				
		法の下での平等				
		新しい人権				
法や規範の意義	裁判所のしくみ	死刑制度の是非				
		裁判員制度				
司法参加		司法権の独立				
政治参加の意義	国会のしくみ					
	内閣のしくみ					
	選挙制度	選挙制度のしくみ				
	地方自治	衆議院選挙				
市場経済の機能	経済と私たちの生活	囚人のジレンマ				
		市場の失敗				
		価格の決定				
	現代の企業	株式投資				
	国民所得と景気循環	国民所得と経済成長				
財政と社会保障	財政と税金					
金融のはたらき	金融のはたらき					
国際経済と日本		貿易ゲーム				
		貿易と国際経済				
国際政治と日本	国際社会の形成					
	日本の平和主義と安全保障	国家主権と安全保障				

Q 2)「社会の基本原理についての理解や、政治・経済に関する知識」をどのように活用できたか、具体的に書いてみましょう。

(例) 法的理解が〇〇の場面で役立った

Q 3)「事実を基に多面的・多角的に考察し、判断する力」がどのように強まったと思うか、具体的に書いてみましょう。

(例) 選挙で誰に投票するか決めるとき、〇〇するよう意識した

Q 4)「社会的事象や地域課題を自分事としてとらえようとする態度」がどのように高まったと思うか、具体的に書いてみましょう。

(例) 新聞への投稿を〇〇しながら書いた

Q 5)「課題解決に向けて協働的に追究し、納得解を見出そうとする力」がどのように深まったと思うか、具体的に書いてみましょう。

(例) どの企業に投資するか決めるとき、〇〇を大切にした

Q 6) よりよい社会の実現に向けて大切だと思うことは何ですか？

(かつての私はこう思っていた)

(Q 2～5を踏まえて、今はこう思う)

**実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究
実施方法等**

【類型Ⅱ】

1. 実践校について

実践校名	(しずおかけんりつはままつえのしまこうとうがっこう) 静岡県立浜松江之島高等学校		
学科名	児童・生徒数	学級数	
芸術科	94	3 学級	
普通科	495	13 学級	

2. 実践研究の対象

学科：芸術科	学年：3 年	生徒数：27 人	学級数：1
	2 年	生徒数：35 人	学級数：1
学科：普通科	学年：3 年	生徒数：175 人	学級数：5
	2 年	生徒数：145 人	学級数：4

3. 実践研究の実施経過

令和 4 年 4 月 校内プログラム委員会①の開催

…プログラムの概要説明、実施体制の検討、評価方法の共有

7 月 学習プログラム開始・事前アンケート実施

芸術科：3 年生「現代社会」 単元「現代社会の諸課題」

「特別活動」全校集会（生徒会主催）で成果発表

普通科：3 年生「現代社会基礎演習」 単元「現代社会の諸課題」

「現代社会発展演習」 単元「現代社会の諸課題」

「情報処理」 単元「ビジネスとコンピュータ利用」

「ビジネス基礎」 単元「身近なビジネス/企業倫理」

7 月 浜松市防災学習センターを訪問、職員からの講話および体験型学習

9 月 「総合的な探究の時間」中間発表・相互評価会の実施 中間アンケート

11 月 浜松市南区役所 行政担当者より講話とDIG訓練の実施

11～12 月 学習成果の発表・発信（校外での発表・発信）

11 月 五島地区自治会 会合に参加し成果発表

あすなろ幼稚園で防災交流会

浜松市政策アイデアコンテスト 最終審査会に出場

浜松市役所にて危機管理課職員に成果発表

12 月 南の星小学校で防災交流学習会

江南中学校で防災学習体験会

南区役所区の振興課職員に成果発表

社会福祉法人遠浜会の施設で避難生活体験・交流会
動物病院・ペットショップにチラシ配布

12月末 事後アンケート実施

令和5年1月 校内プログラム委員会②の開催

…成果検証および反省・課題点の共有、報告書の作成
成果発表会、報告書の提出

4. 実践研究の実施体制

- ア 校内プログラム委員会（構成：管理職、教務課長、地歴公民科及び商業科教員、総務課防災教育担当者）を開催し、学習プログラムの方向性や実施方法、学習成果などについて協議をし、それをもとに報告書を作成する。必要に応じて、外部講師や教育委員会の指導主事等にプログラム委員会への参加を依頼する。地域の連携先との連絡は、まず管理職が趣旨説明等を行い、了解を得たところで授業担当者が訪問・電話にて具体的な連携内容や日程調整等を行う。
- イ 学習者への助言・指導を充実させるとともに、生徒評価の客観性・公平性を担保するため、学習プログラムではチームティーチングを採用する。授業者を含め、常に2名以上の地歴公民科の教員が授業に参加し、調べ方・話し合い・記述等に関する効果的な生徒への助言・支援および指導を行う。また、担当教員が協力して生徒の観察を行い、授業終了時に生徒の学びの姿や取り組み状況を、ルーブリックを用いて形成的評価をする。

5. 教育委員会等として取り組んだ内容

静岡県教育委員会としては、事業推進にあたって、コミュニティ・スクール事業など地域との連携を強化して地域に開かれた教育課程を推進する取組や、オンリーワン・ハイスクール事業などで推進している課題解決型学習の取組などを参考にして指導助言を行うとともに、予算の適正な執行等について指導助言を行った。

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

【類型Ⅱ】

実践校名：静岡県立浜松江之島高等学校（芸術・普通科）

研究主題

持続可能な社会づくりに貢献する公民的資質の育成
～持続可能な防災まちづくりの提案を通して～

主題設定の理由

科目「公共」で育成を目指す「公民的資質」とは、将来の持続可能性が危ぶまれる身近な地域の課題を、自らにも関わる問題だと自覚し、その解決に向けて主体的・協働的に取り組むことができる資質であると考え。生徒が学びたい切実なテーマを中核に据えつつ、概念を活用した認識枠組みを基盤として、現実の地域課題を教室に持ち込んで探究活動を行う。そして、実社会との接点を持ちながら、将来を見据えた解決策の提案・実践とその振り返りをさせる。このような学習プログラムの開発を通して、様々な人々と協働しながら持続可能な地域社会づくりに貢献できる姿勢や各能力を涵養したい。

学校が所在する浜松市南区の抱える課題として、災害（地震・津波）が挙げられる。浜松市民、特に南区民にとって地震・津波の問題は、私たちの命に関わる切実な課題である。防災への意識を高め迅速な避難行動をとるための訓練や防災教育も各学校・地域等で実施されているが、地域防災には課題点もあると言える。今後、もし、巨大地震が発生し、その被害が大きくなった場合、被害を受けた南区民の避難生活をより良いものにし、街並みや経済を再建するための計画を事前に考え、準備をしておく必要があるだろう。東日本大震災後の東北地方での取り組みを参照しつつ、生徒の関心や問題意識に沿って様々な角度から「持続可能な防災まちづくり」にアプローチすることが可能であり、それら学びの成果を共有させることで、「公共」の1単位として充実した学習内容となることが期待できる。

以上、被災前・被災時の「命を守る」減災・防災のあり方を、また被災後の「生活を守る」復興・支援のあり方を考え、持続可能な防災まちづくりのために生徒が主体的・協働的に取り組むこの学習プログラムの開発・実践を通して、持続可能な社会づくりに貢献する公民的資質の育成を目指す。全国各地で中規模以上の地震が続き、今後、いつ大地震が来てもおかしくない状況において、このプログラムは他県・市の各学校においても切実なテーマとして実践・活用可能ではないかと考えられる。

概要

- 将来の持続可能性が危ぶまれるまちの課題（地震・津波）を協働して調査・分析し、自ら提案した解決策を相互評価し他者へ発信する活動を通じて、地域の視点に立ち持続可能な社会づくりに貢献できる公民的資質を育む学習プログラムを開発する。

学習プログラムの主な内容

- ① 見通しを持ち探究テーマを設定する【公民科および商業科など・3時間】
単元の目標「南区で地震・津波の被害を最小限にする（亡くなる方を0に近づける）には？」と全体の流れを確認し、防災という課題で関心のあるテーマを設定する。
- ② テーマを調査し分析する【公民科・2時間】
テーマの探究に向けて調査すべき問いを班で設定し、協働して情報を収集する。調べて発見・分析したことを、自由・幸福・公正などの基本原理を用いて説明する。
- ③ 解決策を提案し相互評価する【公民科および商業科・2時間】
班で話し合い、地域の視点に立って目標実現に向けた解決策を提案する。提案したものを、「持続性を問う5観点」から班員で評価し合い、より持続・現実性の高いものへと修正を行う。そこで調査が足りないと気付いた分は追加で調べる。
- ④ 中間発表会を行い成果物を制作する【公民科および総合的な探究の時間・5時間】
学年でテーマごとに分かれ、地域の方に発表・発信する予定の策・成果物について他班員に発表する中間発表会を行う。他班からの評価・コメントをもとに再調査し、策の修正をはかる。成果物の完成に向けて、班員で協力して制作する。
- ⑤ 学習成果を地域で発表・発信する【公民科および特別活動など・2時間、このほか自宅や放課後において実施】
地域の方と連携し、防災の課題解決に向けて学習した成果を直接的に発信・発表する。地域の方から講評を貰い、発表を振り返る。

学習プログラムの成果の概要

- 「防災」という地域の課題を、自己に関わるものと捉えた生徒が最終的に約9割となった（全体202人中182人が該当）。またその地域課題の背景を「自由・幸福・公正・効率」等の概念を用いて説明できる生徒が最終的に9割を超えた（202人中190人が該当）。
- 「持続性を問う5観点」の活用によって、ほとんどの解決策の現実・持続性が高まり（202人中170人が該当）、また行政による既存の対策とは異なる多様な政策が提案された。行政関係者（浜松市及び南区防災担当者）からの一定の評価も得た。
- 生徒全員が地域の方へ発表・発信を行った結果、最終的に約8割の生徒が、地域への参加・貢献意欲（質問「あなたは今・将来、地域の方々の防災という課題の解決に貢献したい・できると思う？」）についてプラスの回答をした（202人中164人が該当）。また、この取組が他地域に広がることを期待する声も複数上がった。

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（詳細）

【類型Ⅱ】

実践校名：静岡県立浜松江之島高等学校（芸術・普通学科）

学習活動① 見通しを持ち探究テーマを設定する【公民科および商業科など・3時間】

○単元の初回授業として、プロジェクト全体の目標と流れを確認し、生徒に見通しを立てさせる。地震・津波と「防災」という課題を概説（ex. 東日本大震災の紹介）し、生活する浜松市南区でどのような被害が予想されるのか、行政や各自治体がどんな対策・準備をしているのかを理解させる。その上で、「南区で地震・津波の被害を最小限にする（亡くなる方を0に近づける）には？」という単元全体の共通目標を生徒に提示する。なお、どのグループにも共通する基本的知識を体験的に理解することをねらって、浜松市防災学習センターで様々な学習を行った（右写真）。特に立体マップを用いた館長らの講話は生徒の調査意欲を高めた。



○商業科「情報処理」の授業で、防災とSDG sをテーマに、持続困難な社会的課題の現状と目標を学習し、探究テーマ設定の見通しを立てる。防災という課題の中で、特に興味があり、調査したいジャンルを1つ選び、2～4人のグループを作る。

- ①【まち・施設】…浜松市南区のまちに潜むキケンや防災施設を調べる
- ②【人・訓練】…南区で災害時に助けが必要な人や助ける方法を調べる
- ③【情報・心理】…地震・避難情報の伝え方や災害時の心理を調べる
- ④【外国人】…災害前/時/後の南区居住の外国の方々への支援を調べる
- ⑤【子供・教育】…市に住む児童・子供に防災を伝える方法を調べる
- ⑥【避難所生活】…災害後の避難所生活や食事、ペットについて調べる



グループで考えた探究テーマの例

- 災害時に私達高校生にできることは何か？（左②）
- どうすれば逃げようとしなない人々が災害時に迅速な避難行動をとれる？（左③）
- 外国人に津波を正しく理解してもらうには？（左④）
- ペットと安全に避難所へ避難する方法は何？（左⑥）

そしてグループで話し合い、トピックに沿った探究テーマを問いの形で設定する。

学習活動② テーマを調査し分析する【公民科・2時間】

○各グループは探究テーマの解決に向け、「調査すべき問い」を生徒自ら設定し、調査を開始する。主な調査方法は、参考文献や県・市の文書、ウェブサイトによる情報収集である。地域の方々の目線に立つことを意識し、できる限り具体的なデータや住民の声などを集めることに注意した。この調査でiPadやPCとGoogle各機能を使い、情報収集の効率化を図った。調査し整理する中で分かった（分析）、気づいた（発見）ことを、「自由・幸福・公正・効率（不自由・不幸・不公正・非効率）」といった『公共』基本原理（概念）を活用して説明させた。概念を用いることで思考を深めたり、説明の説得力を高めることをねらった。



学習活動③ 解決策を提案し相互評価する【公民科および商業科・2時間】

- 調査・分析したことをベースに、探究テーマの解決につながる策を考え、グループで1つ提案する。授業開始時に、各自で策のアイデアをワークシートに記入し、グループで意見交換しつつ、策の具体内容、その実施主体や対象場所、策が必要な理由を記入させる（右シート）。その際、前時の調査データを必ず活用することと、地域の方々の目線に立つことに注意させた。策の対象となる人々をできる限り具体化し、その人たちのために何が必要か、を考えさせた。
- 生徒の考えた解決策が、既に県・市などで計画・実施されていたり、また実現・持続性に乏しいものであったりする場合も考えられる。策を作って終わりではなく、相互に批判的に検討し持続性や現実性を高めることで、行政や地域からも評価されるものになるだろう。学習指導要領解説公民編の「妥当性や効果、実現可能性などを指標にして論拠を基に自分の考えを説明、論述する」の記述を参考に、本実践では「持続性を問う5観点」を開発し、活用させた。

グループ協議 策の提案①

●具体的な策を一つ提案しよう！ 地域域の目標に立ち / 想定にとられず / 調査データを活用する

議題: _____

実施主体: _____ 対象場所・人: _____

なぜ南区にとって必要な理由は？ (調査したことも「自由」「希望」「公正」「防犯」の観点から説明)

↑を、持続性を問う5観点をを用いて、批判的に検討しよう

観点: 【分析度 / 継続性 / 魅力度 / リスク / 実現性】 →使ったものに全てマルをつける

実施に対する問い: _____ ?

問い: _____ ?

★策①の修正・改善案

▼「持続性を問う5観点」 (JICA の OECD-DAC 事業評価5項目を参照)

分析度	状況分析が十分で、情報が揃い、根本的な解決策かを評価 問い「その策が根本的な解決になる？情報・分析は不足してない？」
継続性	提案の予算や手続き、担う団体・機関の妥当性を評価 問い「その維持費はどれだけ？管理・運営を担うのはどの機関？」
魅力度	提案の独自性や興味深さ、他者(社)に訴えるかを評価 問い「人々に伝わる魅力・アピールはある？商業的なニーズは？」
リスク	提案を導入する影響・デメリットを考慮したかを評価 問い「導入するとどんな影響が？他者や環境にどんなリスクが？」
実現性	政策の実現可能性や今後のビジョン・見通しを評価 問い「それで具体的に何がしたい？その策の今後の見通しは？」

▼5観点カードの例

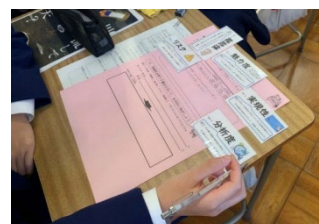
分析度

問い: その策が課題の根本的な解決になる？
その策だけで解決に十分？既にやってない？

継続性

問い: その維持費はどれだけかかる？誰が払う？
その管理・運営を担うのはどの団体・機関？

この5観点をカードにして活用させ（右写真）、自分たちの作った解決策を相互に批判的に検討することで、その持続性や現実性を高めさせた。これにより、自分たちの足りなかった視点や調査すべきことが明らかとなり、自らの学びを振り返ることになった。策を修正した生徒の提案の一例（A評価）を示す。評価のポイントは、「5観点を複数組み合わせることで多角的に策を検討しているかどうか。」である。



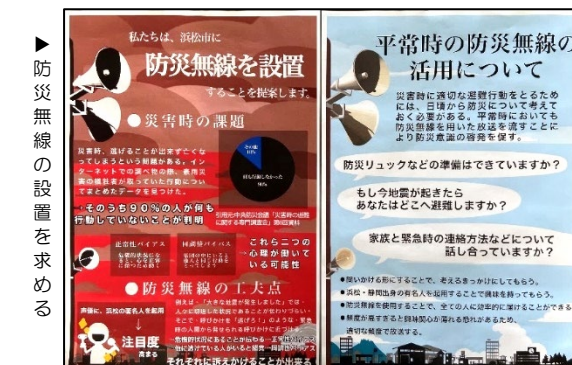
班名	相互評価前の提案(探究テーマ)	使用した5観点	相互評価後の修正案	評価
31HR 情報 心理 A班	提案: 高い津波が予想される南区の方に津波の高さと避難場所を示したマップを作って配布する。 テーマ: 「高い津波が予想される地域の方に、避難しよう！と思って貰うためにはどうすれば？」	魅力度 「津波の怖さをリアルに実感し、注目してもらうには？」 実現性 「具体的に何を伝えたら、よりスムーズな避難行動が実現する？」	修正: 逃げなくても大丈夫と思っている方に津波の危険性を実感してもらうため、実験動画や色付きマップを発表内容に取り入れ、言葉だけよりも注目してもらえるよう工夫した。また、緊急避難場所と避難所の違いをスライドで明確に示し理解してもらい、いざ避難が必要になった時にその2つを混同させず正しい行動がとれるようにした。	A

学習活動④ 中間発表会を行い成果物を制作する【公民科及び総合的な探究の時間・5時間】

○学習成果を同ジャンルの他班と共有するため、総合的な探究の時間で中間発表会を実施する。発表会では、「解決策・作品の内容」「連携する地域の方」「地域の方に伝えるための工夫・注意点」の3点から発表し、他班員から評価（実現性・貢献度・魅力度の3項目でA・B・C）と改善のコメントを貰った（下写真）。



○発表会で貰ったコメントから、策の改善が必要な点を
班内で共有し、タブレットを用いて再調査（フィールド
調査を含む）・提案をはかる。これらを基に、地域の方
に発表・発信するための成果物を制作する（右写真）。
学校近隣の自治会へ配布用のチラシを作成したり、幼稚
園や小・中学校で学習会を実施するための準備をしたり、市や区の防災担当者へ発表
するためにスライドを作成したりと、連携する地域の方に合わせて様々な形態の成果
物が作られた。以下にその例を示す。

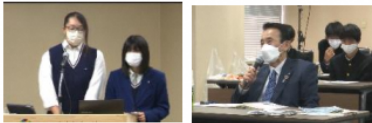


○商業科「ビジネス基礎」の授業では、CSRについて学習し、企業活動による地域課題の解決方法を探り、自らの策を改善するための見方を養った。

学習活動⑤ 学習成果を地域で発表・発信する【公民科および特別活動など・2時間、このほか自宅や放課後において実施】

○ テーマごと分かれて解決策・成果物作りをしていた 67 班を、発表・発信のねらいや内容に応じて以下 9 つの連携先に割り振り、生徒全員が地域の方や行政担当者と直接的に関わり、成果を共有・発表する機会を設けた。各団体との連携先から、発表内容等について口頭ないしアンケート用紙でコメント・評価を積極的に貰い、生徒にフィードバックした。

連携先一覧 ※実施した時期は連携先の都合等により、それぞれ異なる

連携先	連携内容の概要と工夫点	連携 班数
①浜松市南区 五島地区自治会 	- 学校近隣の住民および遠州浜に住む外国人向けの防災啓発チラシ等を作成する。五島地区自治会長の会議に各班の代表者が参加し、五島地区で配布したいチラシ等を各区長に発表する。 - 五島地区避難訓練に参加し、地域の方と繋がり、避難マウンドへの避難や消防隊の放水体験等を行う。	13 班 (42 人)
②あすなろ幼稚園 (南区遠州浜) 	- 海岸からすぐ近くの幼稚園にて、本校生徒が幼稚園生と防災をテーマに交流・学習する。 〇×クイズや防災カルタ・人形劇など、幼稚園児でも伝えたいことが理解できるような工夫をし、発表に臨んだ。	7 班 (23 人)
③市立南の星小学校 (南区西島町) 	- 市指定の避難所となっている近隣の小学校で、小学生に対して避難行動や防災の知識等を伝える。 - 芸術科生徒によるパネルシアターや〇×クイズ、双六や「なんじゃもんじゃ」など、遊び要素の中に防災の学びを取り入れた発表を行う。	10 班 (29 人)
④市立江南中学校 (南区江之島町) 	- 本校に隣接し災害時にも協力し合う中学校で、中学生に対して災害時の人間心理や防災行動に役立つ実践的な講話・体験を行う。 - スライドを使った発表や、避難行動リレー、共助ロープ結び体験、防災地図作りなどで工夫した。	13 班 (36 人)
⑤社会福祉法人遠浜会 (南区寺脇町等) 	障がいのある方への支援をしている遠浜会と連携。防災機能を備えた施設「ぶらねっと」にて、避難者が来たと想定し、「寝る・プライバシーの確保」「飲食する」「高齢・障がい者の支援」の主に 3 側面から、よりよい避難所生活を高校生が提案する。	4 班 (9 人)
⑥南区役所区振興課 (南区江之島町) 	- 南区の防災対策について、より多くの人の命が助かるための様々な提案を南区役所の防災担当者に発表する。 「既存の商業施設を緊急避難所に」「防災倉庫の備蓄品を見直す」などオリジナルの提案が多く出た。	6 班 (15 人)
⑦浜松市役所危機管理課 (中区元城町) 	- 浜松市役所危機管理課の行政担当者に対し、市全体の防災力向上につながる様々な提案を発表する。 「天竜杉を活用した避難タワー作り」「ゲルテントを活用してどこでも避難所に」「より避難行動につながる防災無線・警報音に」など独自の提案が多数。	6 班 (18 人)
⑧浜松市役所企画課 (中区元城町) 	「2022 年 地方創生・浜松市政策アイデアコンテスト」に出場し、南区の防災機能を高める策を市長らに提案する。 「防災機能を備えたショッピングモールを南区に！」がテーマで、最終審査会に出場。	1 班 (2 人)
⑨南区のペットショップ・動物病院等	南区にあるペットショップや動物病院に、ペットとの同行避難や避難所での生活、事前の備えなどについてまとめたチラシ・ポスターを配布予定。	7 班 (28 人)

成 果

(児童生徒の変容等)

○《知識及び技能、思考力、判断力、表現力等の面での変容》

- ① 質問「防災という課題について考えたり感じることは何？」に対する生徒のアンケート記述を見ると、事前では地震・津波の恐ろしさや破壊性をイメージする生徒が多かったが（125 人、全体の 61%が該当）、事後では自分たちの災害・防災に対する理解や意識の低さを認識したり、課題の解決のために自らが学んだことを生かす必要があると考えるようになった生徒が増えた（152 人、全体の 75%）。以下に変化の例を示す。

生徒	事前の記述	事後の記述
1	もし津波が来たら、私はどうやって逃げればいいか、何を持っていけばいいか、家にいるペットはどうすればいいか、あまり考えてないので、すぐ行動できないと思う。	このプロジェクトでペットと災害について調べると、ペットの避難場所は <u>完全に完備されていない</u> ことが分かりました。住んでいる地域には避難ビルや高台が全くないため、避難する時に人やペットが一つの場所に集まりすぎるのが課題だと思います。私もそのうちの一人になるかもしれないので、災害が起きる前に、 <u>県や市に提案をすべきだ</u> と思いました。
2	学校が海のすぐ近くにあるので、もし地震が来たらと思うと怖い訓練などを行って備えるのが大切だと思う。	今までは避難訓練も自分たち中心だったから、外国人や子どもなどにどうやって正しい知識を伝えられるか、と違う目線で考えることは <u>すごく難しかった</u> 。もし地震がいま起きたら、この防災プロジェクトで <u>身に付けた知識が生かせる</u> と思った。
3	津波で多くの人が流されてしまうかもしれない。事前に防災地図などで必要な情報を把握する。	自分は今まで受ける側だったけど、今回発信する側になって、より <u>防災の考え方が深くなった</u> 。「なぜそれが必要か、なぜそうなるのか」を考えて伝えないと理解してもらえないので、そこの部分を考えることができた。

- ② 生徒に記述させた最終レポートを、以下の「思考・判断・表現」に関する 2 つの評価観点に照らして評価した。

	評価観点・基準	素晴らしい (A)	よい (B)	改善が必要 (C)
①	取り組むテーマの背景や課題点などを、幸福/自由/公正/効率などの概念を用いて適切に説明しているか (思考・判断・表現)	テーマの背景・課題点などを、概念を複数組み合わせ用いて多角的に考察・分析し、かつ説得力ある形でそれを表現している。	テーマの背景・課題点などを、概念を適切に用いて考察・分析し、それを適切に表現している。	テーマの背景・課題点などを、概念を用いて考察しようとせず、文章等で表現できていない。
②	策の現実/持続性を、5 観点を用いてグループ内で検討し、その修正を図っているか (思考・判断・表現)	策の現実/持続性を高めるために、5 観点を複数組み合わせ用いて多角的に検討をし、策の改善・改良がされている。	策の現実/持続性を高めるために、5 観点を用いて検討をし、策の修正が図られている。	5 観点を用いた策の修正ができず、自らの策の見直しができていない（現実/持続性が高まっていない）。

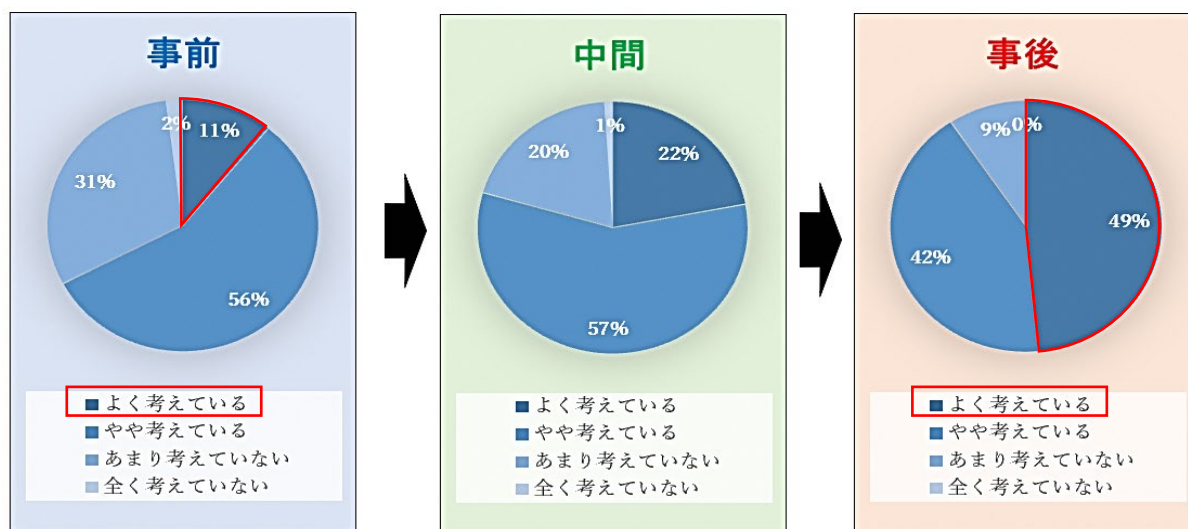
これに照らして最終レポートを評価した結果、**基準①**で評価「A」を付けた生徒は 76 名、「B」を 114 名、「C」を 12 名とした。自らの策が地域の防災のためになぜ必要なのかを他者に説明する際、幸福・公正など『公共』で学習する諸概念を適切に用いた生徒は、全体の 94%に達した。以下、評価「A」を付けた生徒の記述例である。

生徒	提案した策（探究テーマ）	使用概念	概念を用いた策の背景・理由の説明	評価
1	提案 ：南区の外国人が多い自治体で、多言語で防災の準備を呼びかけるポスターを貼り、宗教に配慮した防災食を備蓄する。 （テーマ 「浜松市の外国人の方々は、災害時に避難所での食事をどうすべき？」）	自由 公平 効率	浜松市に多い外国の方は、宗教上の理由や言語の問題で私たちよりも災害時に困ったり不自由を感じる人が多いと思ったから。災害時に、外国の方も日本人と同じく公平に扱われ生活でき、生きのびられるよう、私たちにどんな準備ができるか興味があったから。地域の実情に合った外国人向けの非常食を用意することで、 効率的な支給 ができると思ったから。	A

また、**基準②**で最終レポートに評価「A」を付けた生徒は65名、「B」を108名、「C」を29名とした。「持続性を問う5観点」の活用によって、86%の生徒が自らの解決策の現実・持続性を改善することができた（改善例は、先述の**学習活動③**の箇所を参照）。

○《主体的に学習に取り組む態度の面での変容》

- ① 質問「**南区の「防災」の課題を、自分に関わりがあると考えているか？**」について、事前・中間・事後アンケートでは以下のような結果となった。



「防災」という地域の課題を、「自分によく関わりがある」と捉えた生徒が最終的に約半数の47%（全体202人中95人が該当）となり、「やや関わりがある」も含めると9割に到達した。また、「あまり/まったく関わりがない」と認識する生徒は、最初は全体の3分の1を占めていたが、最終的には1割以下に減少した。特に、地域と連携し関わった前後で大きな態度・意識の変化があった（中間から事後にかけて、76人がプラスの変化）。この変化の背景について、自己との関わりに関する以下のような事後アンケート記述があった。※カッコ内は、中間から事後にかけて、回答した選択肢の変化

- 自分は生まれも育ちも南区なので、小さい頃から災害には警戒しなさいと言われて育ってきました。ただ、課題があると言うことは、このプロジェクトをやるまで自分も知らなかった、気づかなかったので、その課題解決に向けて手助けできることがあればやっていきたいと思えます。（あまり→よく）
- 防災について自分なりの考え方を持っていたが、今回やってみて考え方が変わった。実際に町を調査してみて、知らなかった危険に新たに気づくことができた。（あまり→やや）

ここからは、テーマに沿って調査する中で、課題を自ら発見したことで問題意識が高まり、自分ごとに変化したと推測される。また、次のような記述があった。

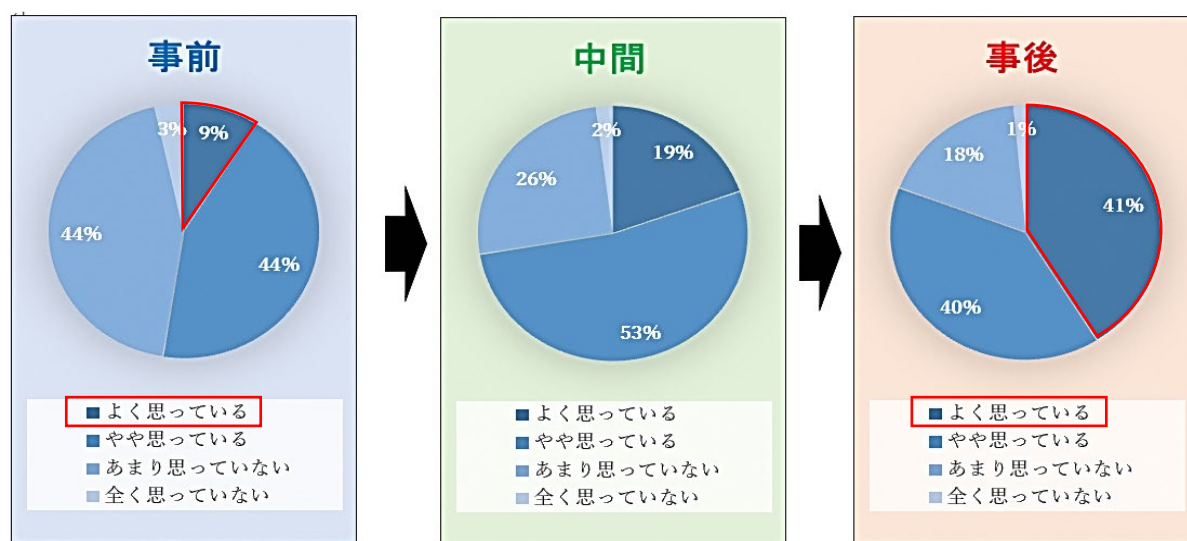
- 自分で防災について調べ解決策を実際に作ることで、知識だけでなく課題解決のために考える機会になった。5観点や概念を通して、違った方向から防災について考えることも必要だと思った。（やや→よく）
- プロジェクトをやったのは、思っているだけでなく行動することが大事であり、行動するには「リスク」や「実現性」などの考え方が大切になってくると実感した。これからは持続性の考え方を使得て取り組んでいきたい（あまり→やや）

ここから、5観点や概念を活用することで地域課題の解決策を考えられ、課題解決への自信がついたのではないかと考えられる。さらに、次のような記述が多くあった。

- 幼稚園の頃から訓練をしたり講座を受けたりしているが、防災プロジェクトで今までで一番深く考えた。他の人の災害に対する不安を減らしたいという思いでリーフレットを作ったが、それにより自分の不安もなくなった。（あまり→よく）
- 自分は中区に住んでいて防災は関わりがないと思っていたのですが、このプロジェクトで子どもたちにどう防災の知識を伝えられるかを考えるうちに、自分にも関わりがあると思うようになった。（あまり→やや）

この生徒たちは、地域の他者の課題を解決しようと考え準備するうちに、自分ごとと捉えるように変化していったのではないかと推測される。

② 質問「あなたは今・将来、地域の方々の防災という課題解決に貢献したい・できると思う？」について、事前・中間・事後アンケートでは以下のような結果となった。



「防災」という地域の課題解決に「貢献したいと強く思っている」生徒が、最初は1割以下だったが、最終的に41%（全体202人中83人が該当）となり、「やや思っている」も含めると8割に到達した。また、「あまり/まったく貢献したくない」と認識する生徒は、最初は約半数を占めていたが、最終的には2割以下に減少した。特に、地域と連携し関わった前後で大きな態度・意識の変化があった（中間から事後にかけて、67人がプラスの変化。8人がマイナスの変化）。この変化の背景について、地域課題への貢献に関する以下のような事後アンケート記述が多くあった。

- 自分は今まで受ける側だったけど、今回発信する側になって、より防災の考え方が深くなった。「なぜそれが必要か、なぜそうなのか」を考えて伝えないと理解してもらえないので、その部分を考えることができた。（よく→よく）
- プロジェクトを開始するまで、どうやって情報を伝達すればいいかわからなかった。やっていく中で、その地域の人の目線になって考えることで伝え方が分かり、また防災のことを自分自身も身近に知ることができた。（あまり→よく）

この生徒たちは、地域の方に発信するため、その目線に立ち伝え方等を工夫したことで、考えが深まり自信になったのではと推測される。また、次のような記述も沢山あった。

- 実際に中学生と交流して、自分たちが頑張って作成したものを中学生が真剣に聞いてくれたり、一生懸命考えて体験学習に取り組んでいるのが分かって、すごく嬉しかった。自分も避難したら、地域の方の少しでも役に立ちたい。（やや→よく）
- 地域の方と関わった時に、自分たちが防災に取り組んでいることを喜んでいました。地域の方も、高校生と関わったのが良かったと感じます。将来は今回学んだことをいろんな人に語り継ぎ、防災のボランティアをやります（あまり→やや）

この生徒たちは、実社会と関わった際にプラスの反応があり嬉しい/達成感があったことで、自己効力感が向上したのではと推測される。さらに、次のような記述があった。

- このプロジェクトを多くの人に知ってもらうことが大切だと考える。今の時代は SNS を使って簡単に広められるので、自分たちの提案を発信したいと感じた。実際に中学校へ行って発表した時、とても有意義な時間だったと感じる。（あまり→よく）
- 私たちは、遊びと学びを両立できるように防災カルタを作りました。一緒にやったら楽しみながら防災について学んでくれることが分かりました。もっと防災カルタが広まって町全体の防災への意識が向上すると思いました。（やや→よく）

プロジェクトで学習したことを将来や他地域でも活用し、課題解決に取り組んだり活動を広げたりしたいという声が複数上がった。

以上から、探究の方法を習得・活用して地域課題への認識を形成し（知識及び技能）、解決策を考え提案する力（思考力、判断力、表現力等）の育成に一定の成果が上がっただけでなく、実社会と直接的に関わり発表・発信することで、地域課題を自分ごとと捉え解決に貢献したいという態度（学びに向かう力、人間性等）の育成においても一定の成果が上がったと言える。

(取組の工夫)

○持続可能な社会づくりに向け地域に参画する態度を科目『公共』で育むためには、本実践のように、項目 A「公共の扉」の各基本概念を課題発見・分析等の場面で活用させながら、項目 C「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」（約 10 時間＋商業科、総合的な探究の時間）にて、学校や地域の実情に応じた現実の課題を取り上げた探究型学習を行うのが、実現性が高いと思う。地域・実践校の実情に応じて学習課題を柔軟に設定できる項目 C であれば、生徒の興味・関心に即してテーマ設定ができ、またオープン・エンドな提案ができる点は、社会参加意欲等の向上につながるだろう。

○持続可能な社会づくりに貢献する公民的資質の育成のためには、生徒の知識及び技能や思考力、判断力、表現力等の育成だけでなく、学びに向かう力、人間性等（社会参加・貢献意欲）の涵養まで踏み込む必要がある。本実践では、学習上のねらいや段階に応じて、実社会と繋がったり他科目（商業科など）と連携したりして、単元を通して社会参加・貢献意欲などの主体的態度の育成を図った。また、その理論的背景として、心理学における「自己効力感」（特定の問題を解決できるだろうという自信・信念）の理論を整理した。バンデューラによると、自己効力感の向上には、以下の要因が関わる。

	1、成功体験	2、代理的経験	3、社会的説得	4、情動的喚起	5、自己調整過程
説 明	過去に 困難な目標を達成した経験 があること。この直接的経験が最も効果的	「あの人ができるのなら、自分にもできるはず」と、 身近な他者の行動・成功を観察 して自信を高めること	他者から「あなたならできる」と 励まし・承認の言葉やフィードバック をもらい、自信がつくこと	生理・精神的な状態 の良し悪しによって、達成できるかどうかの認知や心理が変わること	目標や取り組む過程の選択権が自分にあり、 自ら調整し実行 していると感じること（Schunk,2001など）
活 用 の 視 点	●地域や行政の方との直接的な交流 & 学習成果の発表 ● 中間発表会 の実施など、疑似的な体験でも有意義	●昨年度の取り組みや、先行して連携した班の交流・発表成果（良かった点）を 他班や他クラスに共有 し、そのモデルを示す	●作業・準備段階で担当教員等が生徒にプラスの声かけ ● 連携先の方々から発表に対するコメント を積極的に貰う	●策の提案・発表に向けた見通しや連携先の情報、連携時の留意点などを示し、 学習上の不安や焦りを緩和 してあげる	●探究テーマや調査の問いの設定、策の提案や成果物のづくり方まで、原則として 生徒たちが自ら選び、考え、実行 するよう支援する

Bandura, A 'Self-efficacy' 1997 などをもとに筆者作成

これらを踏まえると、生徒が地域の方と直接的につながり、課題解決に向けた学習成果の発表・発信を行う体験を行うことで、「課題にチャレンジし貢献できた」と自己効力感が向上し、主体的態度の育成を図れるのではないかと、という仮説を立てることができる。上述の心理学の理論などを参考に、「課題を自分ごとと捉え、自己効力感を高める 6 つのポイント」に整理し、今年度はこれらをもとに単元開発を行った。

	ポイント	具体的な説明（活用段階・場面）
①	自らテーマを設定する	生徒一人ひとりの興味・関心に即して、ジャンルや探究テーマを設定すること（テーマ設定）
②	自ら課題を発見する	教師が課題を与えるのではなく、資料を自ら調べ分析する中で、不公正/幸/自由・非効率な地域の現状を見出し、課題を自ら発見すること（調査・分析）
③	探究の方法を習得する	「持続性を問う 5 観点」や『公共』の基本原則「自由・幸福・公正」等の概念を習得し、策の改善に活用する（分析・提案・再提案）
④	地域の目線に立つ	地域の他者のニーズ・主張等を調べ、それらを踏まえた伝え方が相手にできるように工夫する（提案・発表）
⑤	地域の方と直接関わる	地域の他者に学習成果を直接関わり、伝えることで達成感を得る（発表）
⑥	地域から評価される	地域の方や行政の方の防災のために役立つ発表を行い、その方々から正当な評価を得る（発表）

この6つのポイントに従って単元を実施した結果、生徒の主体的態度面（地域の課題を自分ごとと捉える意識、地域の防災という課題解決に貢献したいと思う意識）の育成において、令和3年度の実践よりも大きく改善がなされた。

- 本校と元々交流やつながりのあった近隣自治会や学校・法人などは、管理職からの連絡と趣旨説明等により、比較的スムーズに連携に向けての交渉・準備が進められた。一方で、これまで交流がなく、新規で連携をしたい団体等については、授業担当者等が直接出向き、挨拶と趣旨説明等を丁寧に行うことで交渉・打ち合わせを進めることができた。浜松市危機管理課や南区振興課（防災担当）などの行政担当者とは、昨年度の実践より継続的に連携しており、今年度は解決策作りの助言をいただくとともに、防災行政の現状等を話してもらい、それらを生徒へと還元することができた。そして、静岡県教育委員会に記者提供を依頼し、新聞社等に本校での取組を広く紹介いただくことで、本事業を地域の他者に認知してもらい、連携への協力を広げることができた（期間中に3社より取材を受け、新聞およびウェブサイトで紹介してもらった）。

（他地域でも参考となると考えられる点）

- 本実践で用いた、『公共』項目Aで学習する基本原理（自由・幸福・公正など）を課題発見や策の説明等で活用させたり、「持続性を問う5観点」を解決策の修正で活用させたりする学習方法は、地域課題を多角的に考察し判断するためのツールとして、他地域の持続困難な課題の解決策を提案する学習でも応用可能だと考えられる。これらを用い、『総合的な探究の時間』等で学習成果を発表・共有し相互評価・批判をすることで、課題の解決に向けた生徒の見方・考え方がさらに鍛えられるだろう。
- 地域が取り組む課題として「防災」を主題として取り上げ、その解決に向けて提案し参画を促す学習は、「災害大国」日本の様々な地域の高等学校でも実施できるのではないかと。地震・津波の外にも、台風・洪水被害や温暖化など、SDGsの理念に関わる様々な災害が想定され、また海外で毎年のように起こる災害（ex. 2023年 トルコ・シリア地震など）について考え行動するための基盤にもなると考えられる。特に、全国の沿岸部に立地する高校等は、「防災」は地域にとって切実な課題であり、またその解決・改善に向けて高校生が主体的に考え行動する意義は大きいと感じる。
- 「防災」という共通目標・テーマを置きつつ、各生徒の興味・関心に即して自ら探究したいテーマを考える点が、生徒の学習の多様性を保障する。また、その成果を共有し概念を活用して相互に評価し合うことで、多角的なアプローチに気づき見方・考え方を深めることができる。学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」を実現する単元（パッケージ）の一事例として、他地域の課題解決型学習でも参考となるのではないかと。特に、社会人の一歩手前にいる高校生の社会参加・貢献意欲を引き出し、未来の地域社会を支える担い手を育成するためには、本研究で作った「課題を自分ごとと捉え、自己効力感を高める6つのポイント」を意識して単元開発をし、生徒が直接的に地域社会と関わり振り返る体験が必要ではないかと考えられる。

課 題

○生徒の事後アンケートより、地域の方と直接的に関わり発表等を行っても、主体的態度の育成につながらなかった生徒がいた。以下に記述例を示す。

- 私たちは防災プロジェクトを実行したが、それをどう地域に伝わって実行されるかは市や県の人考えるので、自分が貢献しているという実感はなかった。今よりもっと自分の地域を知って、課題をしぼりたいと思った。
- 実際に津波が来ると言われたら、結局自分しか考えられなくて、他人を助けるなんて無理だと思う。南区のことは市の職員がどうにかしてくれると思うし、僕らが声を上げたって大人はたいして聞いてくれないと思う。

記述にある「地域の課題は、行政の人が何とかしてくれる。私たちには貢献できない」という主権者意識の低さは、単に自己効力感の低さのみに起因するのではないと感じる。すなわち、市民一人ひとりの声と力が集まれば、地域社会や政治を変えていくことができるという実例やその民主主義的なあり方の大切さを生徒に十分に示せていなかったことが理由として挙げられよう。また、地域の方と直接的に関わる機会が本実践のように単元末に行う発信・発表のみであったり、連携相手からの評価がもらえなかったりする場合は、自らが本当に地域に貢献できているか、実感として掴みにくいのではないかと感じた。この点は課題である。単元前に民主主義と主権者教育の本質について学習して、主体的態度育成の構えを作るべきであり、また単元の途中でも地域の方と交流する機会を設け、双方に意見を交換するなど、継続的に関わる仕方を模索すべきだと思った。

○「地域の目線に立って考える」とはどのようなアプローチなのか、体系・理論的な説明が難しく、生徒が「地域の目線に立てている」かを評価する明確な基準が十分に設定できていない。先行研究等を調べ、さらに研究を進めたい。

○校内の他教科（商業科等）との連携の目的や方法、期待される効果などを、もっと深く検討する必要があると感じる。

教育課程上の位置づけと教科横断の実情

	公民科	商業科		授業外活動	
	現代社会基礎演習/発展演習	情報処理	ビジネス基礎	防災ユースアンバサダープログラム	校内自主防災活動
月	3年 202名 (6クラス)	キャリアコース 3クラス110名	キャリアコース 選択者50名	23HR 35名 2年有志5名	運動部・生徒会など30名
4			経済のしくみ		
5			企業倫理	クラス展企画	
6	幸福・自由・公正などの概念習得・活用（倫理的分野）		CSR ・ビジネスの力で課題解決	6/3.4 文化祭 クラス展示 ・防災迷路クイズ ・防災ビンゴ ・防災すごろく等々	
7	防災プロジェクト開始 ・目標・趣旨の確認 ・浜松防災学習センターでの体験学習・館長らによる講話【総合的な探究の時間】 ・テーマ設定、調査	プレゼンテーション講義・実演 1. 伝わる話し方 2. プレゼン実習・スライドの作り方		浜松市防災ユース・アンバサダープログラム キックオフ会議 (Zoom)	
8	・班ごと調査活動・フィールドワーク等 ・各連携先との交渉・調整			準備	8/3 避難所のあり方講義 & 避難所パターション設営体験 対象：運動部・生徒会など30名
9	・調査内容の整理と策の提案(概念活用)	SDGs 1. SDGs とは 2. SDGs × 防災		準備	
10	・10/11 中間発表会の実施、振り返り【総合的な探究の時間】 ・策の修正・再提案 ・成果物の制作			準備	
11	・南区役所防災担当者による講話及び図上訓練(DIG)の実施 ・11/12 浜松市役所にて「浜松市政策アイデアコンテスト2022」最終審査会に出場 ・11/15 あすなろ幼稚園にて防災学習・交流会 ・11/16 五島協働センターにて自治会長会議に参加 成果物発表 ・11/25 浜松市役所にて危機管理課職員に成果発表会			Zoom 会議	(全校生徒：南区役所担当者の防災講座)
12 ・ 1	・12/1.2 南の星小学校にて防災学習会 ・12/2 江南中学校にて防災学習会 ・12/20 遠浜会「ぷらねっと」にて避難所体験・交流会 ・事後アンケート			12/10 浜松市防災学習センター「冬フェスタ」9つのワークショップ実施 協力：FPK ナカタケ株式会社	

防災プロジェクト

—私たちの地域学習・貢献—



●社会科の目標 =持続可能な（サステナビリティ）_____を目指して、
_____（幸福・公正・自由など）を用い、課題解決に向けて自ら実社会に_____する

●なぜ「防災」をテーマに？

① 江之島・湖南・南・新居・湖西・横須賀・榛原・池新田 ⇒共通点は？：_____

②2050 年までに 70%。何の数字？：_____

③11万/363万人。何の数字？：_____

●私の被災体験

●浜松市（人口 79 万 8 千人）の被害予想

建物倒壊等による死者：日中 2840 人、深夜_____人
液状化による建物の全・半壊：約_____件
津波による死者：日中約 1 万人、夜間_____人
※浜松市南区の人口＝約 10 万人 避難所への避難者：約_____人



◎私たちは、地震・津波の被害を最小限にするために、何ができる？何が必要？

→_____

●「釜石の奇跡」釜石小学校・釜石東中学校の生徒が、想定にとらわれず行動し、多くの人の命を救った

プロジェクトの目標：

防災プロジェクト テーマ決め

- ① 浜松市（南・中区）のまち・道路にひそむキケンに備える提案・行動をする（まち・施設班）
- ② 高校生が率先避難者として、地域の人を助ける方法・訓練などを提案・行動する（人・訓練班）
- ③ 命を助ける避難情報の伝え方や、災害時の人々の心理を変える提案・行動をする（情報・心理班）
- ④ 災害前・時の南区の外国人・籍の方を支援する提案・行動をとる（外国班）
- ⑤ 浜松市に住む児童・子どもに防災・減災を伝える提案・行動をする（子ども・教育班）
- ⑥ 災害後の避難所生活（食事・ペット等含む）を改善する提案・行動をする（食・生活班）
- ⑦ その他（その他班）

1 番

2 番

3 番

【選んだ理由（自分の関心がどこにあるか？）】

【そのジャンルのどこを掘り下げたい？具体的に】

【選んだ理由（自分の関心がどこにあるか？）】

【そのジャンルのどこを掘り下げたい？具体的に】

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



グループで調査・分析しよう

必ず赤字で出典
を書くこと！



評価の観点：① サイトや本を複数見て、課題の現状を調査し具体的な数字等を記しているか
②課題の原因・背景を複数角度から分析し、自由・幸福・安心・公正・効率等の概念でまとめているか
③地域（南区）のことをよく調べ理解しているか（場合に応じて実地調査が必要）

調査① _____



調査②_____



調査③_____

グループ協議 策の提案①



●具体的な策を一つ提案しよう！ ※地域が目線に立ち / 想定にとらわれず / 調査データを活用する

策
①

(実施主体： _____ 対象場所・人： _____)

➡が南区にとって必要な理由は？（調査したこと & 「自由」「幸福」「公正」「効率」の概念を活用して説明）

↑を、持続性を問う5観点を用いて、批判的に検討しよう



観点：【分析度 / 継続性 / 魅力度 / リスク / 実現性】 ←使ったものに全てマルをつける

策①に対する問い① _____ ?
(ツッコミ)

問い② _____ ?

★策①の修正・改良案



防災プロジェクト—より持続可能性の高い提案へ—



私たちの考えた政策、

している？



◎日本の大学生が150万円でカンボジアに建てた小学校、5年後には廃校に。なぜ？

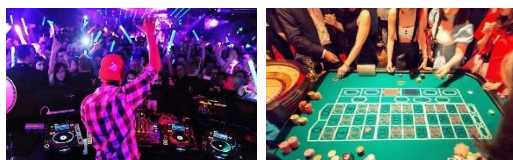


【持続可能性を問い直す5つの観点】

- ① …課題の _____ 分析が正しいか & 解決策が新しくて _____ なものを問う。
(問い方: その政策が課題の根本的な解決になる? その政策だけで十分? 既にやってない?)
- ② …政策の _____ や担当・管理する _____ がしっかりしているかを問う。
(問い方: その維持費はどれだけかかる? 誰が払う? その管理・運営を担うのはどの団体・機関?)
- ③ …人々に訴える _____ があるか & 求められる _____ があるかを問う。
(問い方: 人々に伝わる魅力・アピールがある? どう伝える? 人々に求められるニーズはある?)
- ④ …実行することで _____ にどんな(悪) _____ を与えるかを問う。
(問い方: それをすると、どんな(悪い)ことが起きそう? 失敗した時、他者や環境へどんな影響が?)
- ⑤ …政策の _____ や _____ があるかを問う。
(問い方: それって具体的に何をしたいの? 実現可能? それが目指すビジョン・見通しはあるの?)

★浜松市街地を「若者が行きたいと思える街」にするため、松菱の跡地に ※5 観点をを用いてツッコむ

A _____ を作る



B _____ を作る



グループ協議 策の改善（より持続的な提案にするには）

●あなたの班が取り組んでいる具体的な策を示そう！ ※誰に対して/何をする？ 作品・成果物はどのような？

➡の策をやることのメリット・良いところは？ 地域の人にとってなぜ必要？



↑を、持続性を問う5観点を用いて、批判的に検討しよう



観点：【 分析度 / 継続性 / 魅力度 / リスク / 実現性 】 ←使ったものに全てマルをつける

問い① _____？
(ツッコミ)

問い② _____？

★策の ^(ツッコミ)修正・改良案





防災プロジェクト 策を提案しよう

★策づくりで意識すべきポイント

- ① 具体的な _____ の目線に立って策を考えよう（当事者性）
- ② 市・区などの示す「 _____ 」を当たり前としない！（批判的）
- ③ 前時で _____ を根拠に使いながら策を考えよう（客観性）

プロジェクト全体の目標： 南区で地震・津波の被害を最小限にする（亡くなる方を0人に近づける）提案をする

グループのテーマ（課題）：

↑を解決するためにどんな策が必要？（複数可） & それはなぜ？ あなたの見通しを書こう

★グループ協議を経て、次回に生かすために・・・事後アンケート



①策づくりのポイント（地域の目線に立つ / 想定に捉われない / 調査データを活用）の中で、特にどれを工夫した？

②課題解決に向けて、調べ方・取り組み方などで不十分な点や、新たに追加で調査すべきことは？

③課題解決のために、策①の他に必要な策は何だろう？ & その理由は？

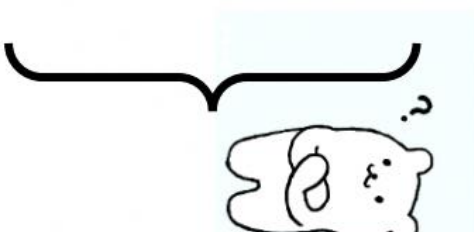
作品・完成物 構想メモ

①あなたの班の作品・完成物（具体的な策）は？：



②↑の作品を誰に対して提供・見てもらう？：

⇒↑の人々の防災に実際に役立つため、特にどんなことを意識・注意したい？（ポイント3つ）



③図・イラスト・コメントなどを用いて、作る作品・完成物の構想をウラ面にメモしてみよう！

5 観点 ①

分析度



(問い) : その策が課題の根本的な解決になる？
その策だけで解決に十分？既にやってない？)

5 観点 ①

分析度



(問い) : その策が課題の根本的な解決になる？
その策だけで解決に十分？既にやってない？)

5 観点 ②

継続性



(問い) : その維持費はどれだけかかる？誰が払う？
その管理・運営を担うのはどの団体・機関？)

5 観点 ②

継続性



(問い) : その維持費はどれだけかかる？誰が払う？
その管理・運営を担うのはどの団体・機関？)

5 観点 ③

魅力度



(問い) : 人々に伝わる魅力・アピールがある？どう伝える？
人々に求められるニーズ・需要がある？)

5 観点 ③

魅力度



(問い) : 人々に伝わる魅力・アピールがある？どう伝える？
人々に求められるニーズ・需要がある？)

5 観点 ④

リスク



(問い) : それを導入すると、どんなことが起きそう？
失敗した時、他者や環境へどんな影響が？)

5 観点 ④

リスク



(問い) : それを導入すると、どんなことが起きそう？
失敗した時、他者や環境へどんな影響が？)

5 観点 ⑤

実現性



(問い) : それって具体的に何をしたいの？実現可能なの？
その政策が目指すビジョン・見通しはあるの？)

5 観点 ⑤

実現性



(問い) : それって具体的に何をしたいの？実現可能なの？
その政策が目指すビジョン・見通しはあるの？)